

# 令和6年度「地方やデジタル分野における専修 学校理系転換等推進事業」成果報告書

地元企業がつくる地域のための理系学科  
新設事業

令和7年2月  
学校法人大庭学園 ソーシャルワーク専門学校

## 目次（1）

---

- 第1章 令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」  
成果報告概要
  - 1 事業の趣旨・目的
  - 2 事業に取り組む背景
  - 3 実施体制
  - 4 取組み内容
  - 5 委員会・委員
  - 6 会議等開催実績
  
- 第2章 令和6年度 取組み内容詳細／調査・研究内容
  - 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート
  - 2 カリキュラム（概要）の作成
  - 3 理系新学科設置に係る広報活動

## 目次（2）

---

- 第3章 令和6年度 取組み内容詳細／打ち合わせ等記録
  - 1 各種打合せ記録
  - 2 出張記録
  
- 第4章 令和6年度のまとめと次年度への取組み
  - 1 令和6年度のまとめ
  - 2 次年度への取組み

# 第1章 令和6年度「専修学校における先端技術利活用実証研究」 成果報告概要

- 1 事業の趣旨・目的
- 2 事業に取り組む背景
- 3 実施体制
- 4 取組み内容
  - (1) ヒヤリング調査及び企業等アンケート
  - (2) カリキュラム（概要）の作成
  - (3) 理系新学科設置に係る広報活動
- 5 委員会・委員
  - (1) 学校評価委員会
  - (2) カリキュラム編成委員会

- 6 会議等開催実績
  - (1) 学校評価委員会
  - (2) カリキュラム編成委員会
  - (3) その他会議・打ち合わせ

# 1 事業の趣旨・目的（1）

本校は、福祉分野に特化した教育機関として長年にわたり地域に貢献してまいりましたが、入学者の減少や社会の変化に対応するため、沖縄県内のIT人材の不足に係る以下の課題にチャレンジします。

- ・ **教育機関の不足**：沖縄県には、IT関連の専門学校や大学が少なく、IT人材の供給が不十分です。また、教育機関と企業との連携も十分ではなく、IT関連のカリキュラムやインターンシップ、就職支援などが充実していません。
- ・ **企業の不足**：沖縄県には、IT関連の大手企業やベンチャー企業も少なく、IT人材の需要も低い傾向があります。そのため、沖縄県のIT人材は、他の地域や国に流出する傾向があります。
- ・ **支援施策の不十分**：沖縄県はIT企業の育成に積極的に取り組んでいますが、IT産業の現状やニーズに合わせた施設やサービスが提供されず、効果が十分に発揮されていないと考えられます。

# 1 事業の趣旨・目的（2）

こうした背景のもと、既存の学校のIT関連のカリキュラムとは一線を画す、**企業主導型のIT人材教育モデルの構築**を提案します。

本事業では、学校法人が単独で学科を設置するのではなく、企業が教育事業に参画し、学科の設置・運営に主導的な役割を果たします。

具体には、沖縄県内のIT企業の保有する教育プログラムや技術者のノウハウを活用して、実践的で最先端のIT教育を提供します。これにより、企業のニーズにマッチしたカリキュラムを開発し、沖縄県内で不足している高度な技術を有するIT人材の確保につなげます。

また、企業技術者を講師に迎え専門的かつ実践的な授業・インターンシップの実施や就職支援など、企業との連携を強化するとともに、**県内就職での奨学金返済免除制度を柱とする企業出資型の修学資金貸付事業を創設**し、沖縄県内への就職・定着の促進を目指します。

## 2 事業に取り組む背景（1）

### ソーシャルワーク専門学校現状及び沖縄県のIT人材教育の現状と課題

本校は平成5年4月の開校以降、保育士や介護福祉士を中心に多くの人材を輩出してまいりましたが、18歳人口の減少に伴う入学者数の減少によって、令和6年3月に介護・社会福祉学科を閉科し、こども未来学科については令和3年度以降募集停止の状態が続いています。

一方で、経済産業省が公表した既存統計調査データをもとに推計した「IT人材需給に関する調査（2018年度）」では、2030年までのIT人材不足数が推計されています。それによると、IT人材需要との需給ギャップから2030年時点で最高約79万人規模でIT人材不足が生じる懸念があることが試算されています。こうした状況は沖縄県でも例外ではありません。2022年10月～11月に実施された沖縄県総務部「沖縄県におけるIT人材需給状況調査（2022年度）」によると沖縄県内のIT関連企業における人材不足率は37.2%と、全国平均26.8%を大きく上回っています。

現在、沖縄県内の大学4校と専門学校6校の合わせて10の教育機関が、プログラミング、Webデザイン、ネットワーク、情報セキュリティなどのIT分野の教育を提供していますが、今後成長が見込まれるIT分野に投入でき、かつ今後の企業ニーズに十分に答えられるほどの人材は育成できていないのが現状です。

沖縄県におけるIT教育の課題としては、以下の点が挙げられます。

- 教育カリキュラムの充実度：企業のニーズに合致した教育カリキュラムを開発する必要があります。
- 教員の確保：IT分野に精通した教員を確保する必要があります。
- 産学官連携の強化：教育機関、企業、行政が連携して、IT教育に取り組む必要があります。

IT分野は技術の進展が早く、人材に求められるスキル等も急速に変化します。企業では、今後、AIやビッグデータ、IoT等、第4次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、付加価値の創出や革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できるIT人材の確保が重要となっていきます。こうした状況は、経済産業省が公表した資料（右表）からも読み取ることができ、「先端IT人材」と呼ばれる高度なIT技術を有する人材の需要は、今後、急速に増加すると見込まれます。

そこで、本事業により、本校の福祉系学科を転換して理系学科として新設をし、今後の成長分野に投入できる人材を育成する場として、以下に示すような、より実践的、かつ、より専門的な教育環境の確立に取り組みます。

- ①県内企業の教育事業への参入と企業主導型での出口確保戦略の策定
- ②企業技術者を講師に迎え、専門的かつ実践的な高度IT教育の実現（システムエンジニア、クラウドエンジニア、データサイエンティストなど）

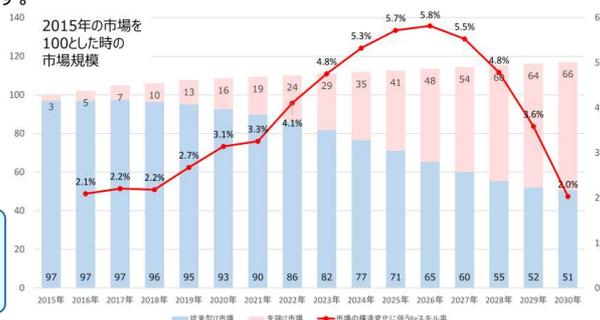


図 3-20 IT需要連動型 Re スキル率の推移

(出所) 経済産業省「『第4次産業革命スキル習得講座認定制度（仮称）』について（報告）」をもとにみずほ情報総研作成

## 2 事業に取り組む背景（2）

### IT人材の沖縄県外への流出の課題

沖縄県における課題の一つに、県内の大学、高専及び専門学校等で育成された優秀な人材が、より良い条件を求めて県外企業への就職や転職を目指して流出することがあります。

なお、主な原因としては、以下の点が挙げられます。

- 求人情報の不足：沖縄県内には、IT関連企業の数や規模が限られているため、求人情報も限られています。
- 給与水準の低さ：沖縄県全体の平均給与水準が全国平均より低いため、より高い給与を求めて県外へ流出してしまっています。
- キャリアパスの不明確さ：沖縄県内には、IT人材がキャリアアップを目指せる企業が少ないという課題があります。

一方で、ITエンジニア・デザイナーのUIターン、県内転職支援サービス、ITキャリア沖縄によると、令和6年6月19日付で146社の求人が掲載されており、求められている業務内容やスキルとしては主に以下のとおりです。

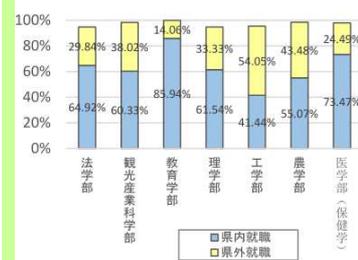
- クラウド（AWS）に関するコンサルティング、設計、構築、運用
- ビッグデータ分析基盤に関するコンサルティング、設計、構築、運用
- ITインフラに関するコンサルティング、設計、構築、運用、サポート、管理

【求められるスキル】

- 言語：Python,Java,C#,Ruby,PHP,C,C++,.NET
- クラウド・プラットフォーム：AWS,GCP,Salesforce,Azure
- ネットワーク：ルータ,UTM,ファイアウォール,IPS/IDS,WAF,ウィルス対策ソフト
- Web：PHP,Python,HTML&CSS,JavaScript(ES5,ES6,TypeScript等)
- セキュリティ：UTM,ファイアウォール,IPS/IDS,WAF

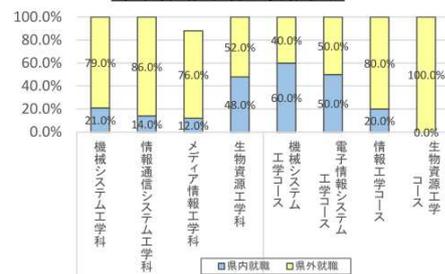
このように様々な技術が必要となるIT人材ですが、経済産業省「IT人材需給に関する調査」によると、今後需要が高まっていくのは、AIエンジニア・データサイエンティスト・クラウドエンジニアなど高度な技術を身に付けたIT人材です。そこで沖縄県の現状を打破し、高度IT人材の育成と人材流出の回避を両立させるため、本事業により基礎学力を重視し、現在、県内企業が求める人材の育成に注力するとともに、今後を見据え高度なIT技術を有した人材の育成を実施できる環境を整えます。同時に、県内企業への雇用拡大の協力依頼や新規事業提案等による出口確保を働きかけた上で、一定期間県内企業に就職することで奨学金の返済を免除する企業出資型の修学資金貸付事業を創設し、卒業生の県外流出の課題に取り組みます。

平成27年度琉球大学学部卒業者の就職状況



※就職率は、「就職希望者」に対する「就職者」の割合。出典 琉球大学HPより作成

平成26年度沖縄工業高等専門学校卒業生・修了者の就職状況

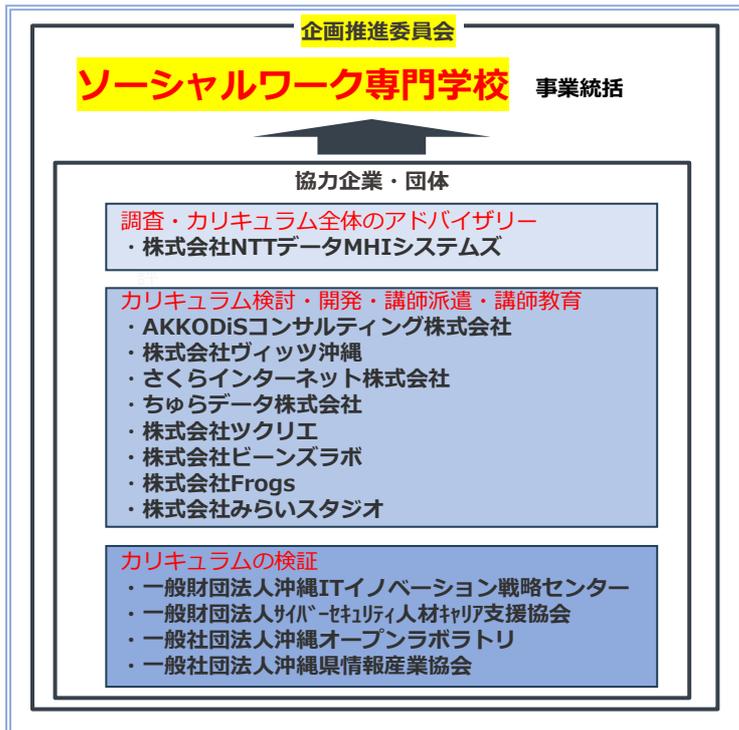


※就職率は、「就職希望者」に対する「就職者」の割合。出典 沖縄高専HPより作成

出所) 沖縄振興審議会 会長・専門委員会合（第4回）資料

当該サイトに掲載されている企業は、沖縄県の企業が中心のため県外企業に比べ給与が低いことは否めませんが、**沖縄県が注力する、IT企業誘致を通じて近年立地した県外企業の中には、地域間格差のない賃金制度を定める企業もあります。**  
**今後、卒業生やIUターン希望者の受け皿となる県内企業が増えることで、そうした企業への就職希望者も増えることが考えられますが、同時に、企業に求められる業務内容やスキルレベルも高まっていくと予想されます。**

### 3 実施体制



CGCGスタジオ株式会社  
OTNet株式会社  
株式会社ウィットワン沖縄  
株式会社学研エデュケーショナル  
株式会社Left Foot Games  
株式会社O C C  
株式会社TAGラボ  
株式会社あしびっとワークス  
株式会社ニッポンダイナミックシステムズ  
株式会社ファニット株式会社  
株式会社ホウオン  
株式会社国建システム  
株式会社国際システム  
大同火災海上保険株式会社  
知財コンサルト

うるま市  
豊見城市  
沖縄県東京事務所  
官民連携事業研究所

当該事業申請時（令和6年5月時点）

（令和7年2月時点協力可能企業・団体）

### 4 取り組み内容（1）

#### （1）ヒヤリング調査及び企業等アンケート

##### ①ヒヤリング調査の実施

県内企業の皆様にご協力を賜り、IT人材の理想像に関する情報を収集いたしました。また、本取り組みにご賛同いただける企業を増やすため、カリキュラムの調整や講師の派遣、奨学金の創設などにご協力をお願いしてまいりました。

なお、ヒヤリング結果につきましては、1月15日（水）に開催されました意見交換会にて、調査を依頼しました株式会社NTTデータMHIシステムズ様よりご報告いただきました。

##### ②企業等アンケートの実施

上記意見交換会では、厳しいご意見もいただくなど一定の成果はありましたが、さらに突っ込んだご意見をいただくため、追加のアンケートを実施することといたしました。アンケートの対象は、これまでイベント等で名刺交換させていただいた企業様に加え、沖縄県情報産業協会様を通じて会員企業に依頼していただきました。

## 4 取組み内容（2）

### （2）カリキュラム（概要）の作成

#### ① 育成すべきIT人材の定義の確認

アンケートやヒアリング調査の結果を踏まえ、現場とのコミュニケーションを通じて得られた意見をカリキュラムに反映させる試みを行いました。また、長期的な活躍やキャリアを視野に入れ、今後必要となる技術の素養についても調査結果に基づきカリキュラムに盛り込むことを検討いたしました。さらに、目指すべき人材に必要な要素について、企画提案書にて定めた時点からの変更点がないかを確認し、カリキュラム（概要）の作成を行いました。

#### ② 学科・コース構成とカリキュラム

上記の意見交換会およびアンケートでいただいたご意見を踏まえ、カリキュラム（概要）のたたき台を作成いたしました。編成の方針は後述の通りです。

本カリキュラム（概要）については、意見交換会やアンケートにご協力いただいた企業・団体様を中心に幅広くご意見を求め、修正を加えた後、科目や担当者などの具体的な調整を企業様と共に進める予定です。

## 4 取組み内容（3）

### （3）理系新学科設置に係る広報活動

#### ① 各種イベントへの参加

検討を進めております理系新学科の広報活動の一環として、「ResorTech沖縄」や「官民MEET沖縄」、「ITフェスタ2025」など、沖縄県や企業、団体が主催する各種イベントに参加いたしました。これらのイベントを通じて、企業や団体、高校生の皆様に理系分野への興味関心を持っていただく取り組みと、新しい学科が開設されることの周知を行いました。

#### ② 県内高校等への出前授業の実施

検討を進めております理系新学科の開校準備の一環として、沖縄県立陽明高等学校において出前授業を実施いたしました。この授業を通じて、高校生の皆様に理系学科への興味関心を持っていただくことを目的としております。また、同イベントにおきましても、高校生や教員の皆様に広く周知活動を行い、次年度以降の募集活動につながるよう努めました。

## 5 委員会・委員（1）学校評価委員会

会議名①	学校評価委員会（仮称）		
目的・役割	実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の実施内容や意見交換等を通じて、新設する学科の基本構想を策定し、効果的な広報を実施するとともに、アンケートに基づく意見の集計結果からカリキュラム等の評価することを目的とする。		
検討の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画及びスケジュールの進捗管理</li> <li>・アンケート等調査の実施</li> <li>・新設学科設置準備</li> <li>・広報戦略の策定及び実施</li> <li>・カリキュラム・授業シラバスの評価・助言</li> </ul>		
委員数	6人	開催頻度	6回

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	江川 毅	リョウワーク専門学校・シニアスペシャリスト	委員長 学内委員	沖縄県
2	正木 忠勝	リョウワーク専門学校・特任教員	副委員長 学内委員	沖縄県
3	堀口 典義	株式会社NTTデータMHIシステムズ・シニアスペシャリスト	外部委員	広島県
4	伊藤 弘泰	EQIQ株式会社・取締役	外部委員	東京都
5	松村 隆	株式会社オーシーシー・執行役員	外部委員	沖縄県
6	富村 寿也	沖縄女子短期大学・事務	外部委員	沖縄県

## 5 委員会・委員（2）カリキュラム編成委員会

会議名①	カリキュラム編成委員会（仮称）		
目的・役割	実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行ない、カリキュラムの編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む）に活かすことを目的とする。		
検討の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画及びスケジュールの進捗管理</li> <li>・カリキュラム・授業シラバスの検討・作成</li> <li>・学校評価委員会（仮称）の意見に基づく改善検討</li> <li>・授業担当教員及びコマシラバスの検討・調整</li> <li>・授業方法・授業環境等整備</li> </ul>		
委員数	9人	開催頻度	6回

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	正木 忠勝	リョウワーク専門学校・特任教員	委員長 学内委員	沖縄県
2	江川 毅	リョウワーク専門学校・シニアスペシャリスト	委員長補佐 学内委員	沖縄県
3	兼城駿一郎	株式会社みらいスタジオ・代表取締役社長	外部委員	東京都
4	浜比嘉明彦	株式会社ツクリ工・事業運営グループ	外部委員	沖縄県
5	渡真利 哲	一般財団法人沖縄県情報産業協会・事務局次長	外部委員	沖縄県
6	兼村 光	一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センター・シニアプロジェクトマネージャー	外部委員	沖縄県
7	玉川 博之	一般財団法人日本サバティリティ人材キャリア支援協会・企画委員会委員長	外部委員	東京都
8	新垣 さき	沖縄女子短期大学・教員	外部委員	沖縄県
9	富村 寿也	沖縄女子短期大学・事務	外部委員	沖縄県

## 6 会議等開催実績（1）

### （1）学校評価委員会

令和6年度は事業期間の関係上、カリキュラムの評価には至りませんでした。そこで、令和7年1月15日（水）に委員の方々や協力企業の皆様にご参加いただき、意見交換会を開催いたしました。これをもとに、カリキュラムの策定に向けた準備を開始いたしました。

### （2）カリキュラム編成委員会

令和6年度におきましては、上記の意見交換会およびその後に実施いたしましたアンケートの分析結果を踏まえたたたき台作成を目的とし、2月6日（木）に仮の委員会を開催し、調査結果の報告と意見のすり合わせを行いました。これらの結果を受け、カリキュラムの概要を作成し、正式な委員会にて検討を行うとともに、協力企業に対し概要版のカリキュラム案を提示し、5月の連休前を目途にご意見をいただく予定でございます。なお、事業期間外ではございますが、カリキュラム（概要）の検討を目的として、委員会の招集を行う予定です。

詳細については第3章「1 各種打合せ記録」を参照

## 6 会議等開催実績（2）

### （3）その他会議・打ち合わせ

委員会の形式は採用しておりませんが、事業推進に必要と思われる場合には、プロジェクトマネージャーおよび特任教員を中心に対面での会議を開催し、意思決定を行っております。



## 第2章 令和6年度 取組み内容詳細／調査・研究内容

### 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート

#### (1) ヒヤリング調査の実施

- ① 株式会社NTTデータMHIシステムズ社が訪問したNTTDグループ
- ② 本校が訪問した企業様・団体様
- ③ ヒヤリング調査結果報告
- ④ 意見交換内容テーマ1
- ⑤ 意見交換内容テーマ2

#### (2) 企業等アンケートの実施

#### (3) まとめ

### 2 カリキュラム（概要）の作成

#### (1) 育成すべきIT人材の定義の確認

#### (2) 学科・コース構成とカリキュラム

- ①カリキュラム編成の方針
- ②3つのコースで育成する人物像
- ③コース別カリキュラム構成

- ④カリキュラム案・1年前期
- ⑤カリキュラム案・1年後期
- ⑥カリキュラム案・2年前期 (1)
- ⑦カリキュラム案・2年前期 (2)
- ⑧カリキュラム案・2年後期 (1)
- ⑨カリキュラム案・2年後期 (2)
- ⑩カリキュラム表 (案)
- ⑪時間割イメージ・1年前期

### 3 理系新学科設置に係る広報活動

#### (1) 各種イベントへの参加

- ① ResorTech EXPO in Okinawa (リゾテックエキスポ)
- ② 官民MEET沖縄
- ③ ハイブリッドスタイルITフェスタ2025
- ④ まとめ

#### (2) 県内高校等への出前授業の実施

- ① 講義
- ② グループワーク1
- ③ グループワーク2
- ④ 出前授業のアンケート結果
- ⑤ まとめ

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート（1）

## （1）ヒヤリング調査の実施

当該調査は、「地元企業がつくる新設学科」というコンセプトを実現するために、地元企業が必要とする人材や技術を調査し、それをカリキュラムに反映させることを目的として実施いたしました。調査の方法としては、対面でのヒヤリングの他、アンケートやメールでのご意見収集を併用いたしました。

調査結果につきましては、企業様や自治体様にもご参加いただき、2025年1月に開催の意見交換会にて発表していただきました。なお、企業訪問については、調査をお願いしております株式会社NTTデータMHIシステムズ社と本校のスタッフが分担し、以下の企業様にお話を伺いました。

### ① 株式会社NTTデータMHIシステムズ社が訪問したNTTDグループ

- ・ 日本電子計算
- ・ NTTデータスマートソーシング
- ・ NTTデータカスタマサービス
- ・ NTTデータユニバーシティ

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート（2）

会社名	沖縄での事業	沖縄での従業員数	事業内容	採用やニーズ
日本電子計算	BPOセンター	約250	保険業務の代行入力	新規採用より途中で採用。（主婦層で募集）人手で行っている業務を自動化したい思いはあるもののできる人がいない。また、課題改善をできる人材がほしい。シニア層のスキルチェンジに対応できる機関がない。
NTTデータスマートソーシング	BPOセンター	150-200	事務処理やコールセンター業務	契約社員の採用が主。地域職務限定正社員の採用もあり。プログラミング習得は早めに終わらせて要件定義、問題解決するプロジェクトリスラーのスキルを習得していれば入社してからの後伸びの可能性はある。リカレントのニーズは沖縄では現時点でない。
NTTデータカスタマサービス	サービスセンター		インフラ業務など	専門学校からの新卒採用は近年なし。

NTTデータグループの教育を担っているNTTデータユニバーシティについては講師派遣、LMSなどについてヒヤリングを実施しました。

講師不足解決のため、Microsoft社の「Azure OpenAI Service」を活用して、受講者の質問を受け付け回答する自律的な学習支援ソリューション「UnivTutor™」を導入しており、そのノウハウについて協力は依頼できる見込みです。

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート（3）

## ② 本校が訪問した企業様・団体様

### 11月19日（火）株式会社ファニット株式会社

- ・必要な人材はプログラマー系で現在は中途で採用している
- ・将来的に新卒をとって育てたいと考えている
- ・社内で教育プログラムがあるのでそちらを受けていただくが学校に提供できるかは検討したい。カリキュラムの作成には協力できる

### 11月27日（水）株式会社国際システム国際システム

- ・プログラマーを計画的に採用している
  - ・2次受け3次受けの仕事が多い
  - ・研修は内部で実施期間は半年くらい、ある程度できるようになると退職してしまうため定着が課題
  - ・会社として人材育成の際どの技術どのレベルを目指すか迷っている
- ⇒道筋を立てていっしょに整理をする方法もあるのでは？ 会社としてどのような協力体制が組めるか検討したい

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート（4）

### 12月3日（火）豊見城市総務企画部商工観光課

- ・誘致等などについて協議を継続することとなった

### 12月9日（月）大同火災海上保険株式会社

- ・社内向けシステム開発の人材が不足、社内SEとしての位置づけでベンダーとの調整役
- ・今後はAI分野にもチャレンジしたい
- ・理系は全体的に人材不足、高専は来てくれない
- ・保険を希望する学生は少なく金融系でじっくり志望者がいる程度
- ・銀行を含め、セキュリティ系、サイバー系がほしい人材（サイバー保険）
- ・IT企業への就職を希望する学生とぶつかる
- ・基本的に転職前提、ITスキルを見つけるために入社する学生も多い
- ・寄付講座を琉大、冲国大でおこなっている
- ・金融系では講師派遣、教材提供も可能

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート（5）

## 12月10日（火）沖縄県情報産業協会

- ・本事業の趣旨を説明の上，協会との連携及び会員への情報提供などを依頼した

## 12月18日（水）OTNet株式会社

- ・本校からの説明を受け，1月15日のMTGにweb参加のうえ社内で協力できることを検討していただくこととなった

## 12月19日（木）うるま市経済産業部産業政策課

- ・誘致等などについて意見交換を行った

## 12月24日（火）豊見城市市長

- ・本プロジェクトの趣旨を説明させていただき，誘致等などについて今後も継続して協議することを確認した

## 12月26日（木）CGCGスタジオ株式会社

- ・ゲームクリエイターに関する情報共有及び今後の連携の可能性について協議を行った

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート（6）

## 1月7日（火）エーテック株式会社（メール）

以下のような知見を持っているとスムーズに従事することが可能と考えております

- ・通信技術について  
インターネットの通信技術、サーバやパソコン等の機器の組み立てや構成、それらを接続したネットワークの構築
- ・電子回路技術について  
電気・電子の基礎知識や回路の仕組み（アナログ・デジタル）  
回路基板の製作、ハンダ付けなどを利用した電子機器回路の理解
- ・簡単なプログラミングについて  
言語は問わずプログラム制作の過程や理解
- ・各種計測機器の使用について  
電圧計やパルスオシメーター等の計測機器を利用して、実測値を取ることに慣れていると良い

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート（7）

## ③ ヒヤリング調査結果報告

上記に加え、カリキュラム検討のため、沖縄県内外の専門学校等におけるIT系学科の開設状況やカリキュラム内容、シラバス、取得可能な資格などを調査いたしました。そして、2025年1月15日（水）に開催された企業様、団体様との意見交換会にて、ヒアリング結果と併せてご報告いたしました。

意見交換会では、参加いただいた企業・団体様から調査結果に対するご意見をいただきましたが、新学科の人材育成に対する期待はあるものの、具体的な協力方法や新学科の内容が不明なため、具体的な課題や解決方法についての議論には至りませんでした。

他方、県内のIT企業が他の業態に対してどのような技術や製品を提供しているのか、その背景を説明し、「だから、この技術を学ぶ必要がある」ということを理解するための科目があった方が良いのではないかとのご意見があり、カリキュラムに盛り込むべく検討を行うことといたしました。

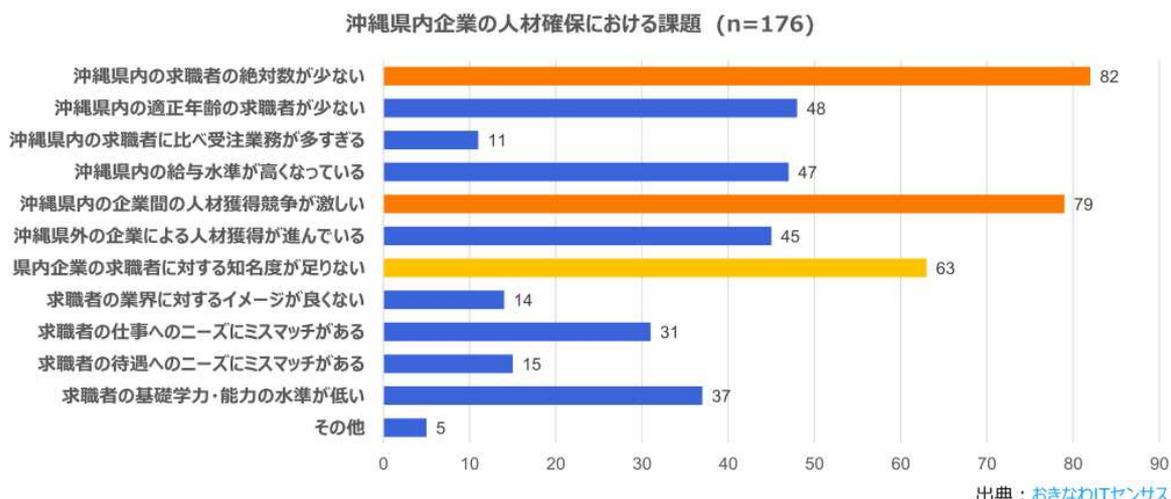
また、参加されていない企業等のご意見を伺うため、後述のようなアンケートを実施することとし、回答の収集に関して、沖縄県情報産業協会様にご協力をお願いしました。

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート（8）

1月15日開催意見交換会報告資料

## 企業の課題 -人材確保における課題

2023年に沖縄県が沖縄県内の情報通信関連企業を対象に実施した調査では、人材確保の課題として「沖縄県内の求職者の絶対数が少ない」「沖縄県内の企業間の人材獲得競争が激しい」「県内企業の求職者に対する知名度が足りない」といった回答が多かった。



# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート（9）

## 地元就職を希望しない理由 - 学生目線

マイナビが沖縄の高校を卒業した大学生に対して実施した調査では、地元就職を希望しない理由として「給料が安そうだから」「希望するスキルを身につけられないから」といった回答が全国平均と比較して高水準であった。

一様性の検定回答の比率を表示

都道府県	回答数	実際に住みた くないから	地元で友人が 少ないから	地元以外に 人がいるから	給料が安そう だから	希望の方が 生活のよき条件 だから	希望の方が活 びや趣味活動 の上で便利だ から	大手企業がない から
全国	1,212	31.6%	5.6%	7.2%	25.9%	38.1%	32.5%	22.6%
北海道	30	42.0%	6.0%	9.3%	22.0%	42.5%	40.7%	16.0%
東北	16	29.2%	-	5.1%	44.9%	50.0%	55.7%	15.4%
関東	19	58.2%	11.0%	14.9%	21.9%	70.4%	44.5%	13.1%
中部	20	56.8%	24.0%	16.1%	21.4%	25.0%	36.5%	11.0%
近畿	6	14.2%	12.5%	-	74.8%	39.3%	51.8%	62.4%
中国	12	21.2%	-	14.1%	66.6%	66.4%	73.4%	59.3%
四国	15	38.7%	10.0%	16.0%	26.0%	61.9%	64.0%	-
九州	39	22.2%	7.1%	14.0%	39.3%	51.0%	32.3%	27.2%
沖縄	23	46.7%	10.1%	5.1%	29.8%	15.2%	38.5%	24.1%
北海道	24	15.4%	14.2%	6.1%	36.8%	48.6%	41.2%	29.9%
青森県	88	29.6%	6.0%	4.8%	24.0%	40.7%	25.4%	15.6%
岩手県	69	31.7%	7.0%	7.5%	24.6%	41.4%	30.9%	18.3%
宮城県	89	14.9%	4.1%	5.2%	15.7%	40.1%	32.6%	9.4%
秋田県	84	37.3%	4.3%	3.0%	15.6%	26.2%	27.3%	19.7%
山形県	12	37.1%	13.3%	-	25.9%	49.7%	49.7%	39.7%
福島県	15	26.4%	-	13.5%	33.9%	39.1%	30.4%	25.2%
茨城県	13	30.4%	6.4%	5.8%	38.4%	56.7%	56.7%	6.4%
栃木県	23	43.7%	-	-	27.5%	8.0%	9.9%	-
群馬県	27	31.0%	6.3%	14.8%	-	30.3%	35.8%	8.7%
埼玉県	13	48.4%	5.2%	-	31.3%	84.1%	53.0%	15.7%
千葉県	13	20.3%	10.8%	-	41.9%	39.1%	20.3%	56.1%
東京都	14	30.5%	-	13.6%	6.0%	33.1%	26.3%	25.5%
大分県	6	23.8%	-	25.4%	61.8%	36.5%	23.8%	23.3%
宮崎県	12	17.2%	-	9.5%	22.9%	12.7%	-	29.4%
鹿児島県	12	41.8%	4.4%	9.5%	47.2%	24.3%	19.3%	34.8%
沖縄県	12	13.5%	-	6.0%	55.9%	46.1%	81.8%	17.2%
海外	19	18.4%	7.5%	-	37.8%	38.8%	17.9%	22.4%

※回答数30未満は参考値とする。

一様性の検定回答の比率を表示

都道府県	回答数	志望する企業 がないから	志望する職種 がないから	地域にとらわ れず働きたい から	希望するスキ ルを身につけ られないから	希望するキヤ リアを身につ けられないから	地元の風土が 好きではない から	特別に暮らした い地域がない から
全国	1,212	37.8%	20.9%	20.0%	9.6%	15.7%	5.0%	6.2%
北海道	30	62.4%	32.2%	24.6%	30.0%	15.2%	2.9%	18.6%
東北	16	23.0%	19.8%	24.3%	-	5.1%	-	10.2%
関東	19	40.8%	28.0%	24.1%	8.8%	13.1%	12.1%	16.5%
中部	20	34.3%	28.0%	7.3%	23.0%	26.6%	14.0%	17.7%
近畿	6	37.6%	29.1%	39.3%	-	12.5%	-	-
中国	12	48.7%	42.4%	27.4%	14.1%	28.3%	7.1%	14.1%
四国	15	34.7%	30.0%	15.4%	21.3%	26.0%	-	-
九州	39	40.8%	16.3%	26.8%	10.9%	14.2%	7.1%	1.5%
北海道	23	25.8%	14.4%	18.0%	10.1%	28.4%	8.6%	-
青森県	24	57.9%	30.7%	23.5%	8.4%	9.2%	3.7%	0.7%
岩手県	88	46.4%	20.2%	15.4%	1.9%	6.8%	3.2%	0.8%
宮城県	89	37.7%	17.3%	18.7%	0.9%	7.8%	2.0%	3.6%
秋田県	84	20.4%	9.1%	13.5%	7.6%	11.2%	4.1%	6.3%
山形県	84	29.4%	15.5%	18.2%	7.3%	15.8%	3.1%	2.7%
福島県	12	47.8%	13.3%	18.5%	28.5%	28.5%	4.7%	10.6%
茨城県	15	36.3%	27.5%	4.1%	4.7%	14.0%	-	-
栃木県	13	38.3%	31.9%	25.9%	6.4%	25.9%	-	12.8%
群馬県	8	-	8.8%	-	-	-	20.0%	-
埼玉県	27	20.8%	9.0%	39.8%	5.3%	8.2%	3.9%	5.9%
千葉県	13	41.8%	31.7%	20.9%	10.8%	9.2%	20.2%	-
東京都	12	84.5%	34.5%	21.0%	21.0%	31.8%	10.1%	5.4%
大分県	11	61.0%	28.3%	37.2%	-	-	8.8%	6.8%
宮崎県	6	38.1%	38.1%	63.5%	25.4%	25.4%	-	-
鹿児島県	12	40.1%	19.7%	5.1%	10.2%	14.7%	-	17.8%
沖縄県	12	62.1%	24.8%	4.9%	-	14.3%	-	-
海外	17	31.4%	19.5%	33.1%	39.0%	25.5%	19.5%	6.7%
海外	19	26.5%	22.0%	6.0%	8.0%	5.0%	-	10.1%

※回答数30未満は参考値とする。

出典：2024年卒マイナビ大学生 リターン-地元就職に関する調査

NTT DATA

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート（10）

## 人材確保における課題 まとめと仮説

### 【沖縄県の人口動態】

- ・ 沖縄県の18歳人口は今後2035年にかけて1.5%程増加する見込み。
- ・ 沖縄県は転出超過だが、転出超過の道府県内では転出を最も抑制できており、男性に限っては転入超過となっている。

### 【新規学卒者の求人・求職・就職状況】

- ・ 県内の大学、短期大学、専修学校等の学生に対する調査では、70~80%の学生が県内就職を希望している。
- ・ 沖縄県内の新卒3年目までの若手離職率は、全国と比較して高い（全国：30%、沖縄県：40%）。
- ・ 沖縄の高校を卒業した大学生に対して実施した調査では、地元就職を希望しない理由として「給料が安そうだから」「希望するスキルを身につけられないから」といった回答が多かった。

### 【企業の人材確保における課題】

- ・ 人材確保の課題として「沖縄県内の求職者の絶対数が少ない」と回答した企業が最も多く、次いで「沖縄県内の企業間の人材獲得競争が激しい」が多い。

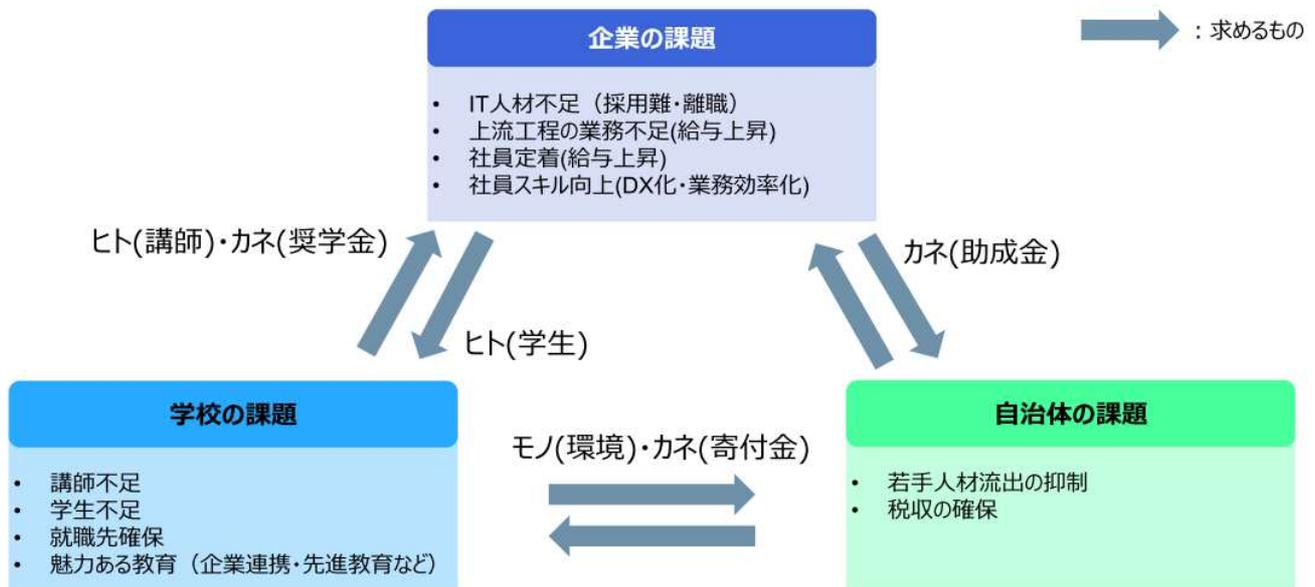
人口流出はしていないはずだが、IT人材は足りていない。

仮説：沖縄県内の企業が求めるIT人材像と、沖縄県内の学校で育成されるIT人材にミスマッチが生じている可能性がある。

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (11)

## IT産業における自治体・企業・学校の課題

これら課題は自治体、企業及び学校単独で解決する課題ではなく、産学官が連携することで解決に向かっていけるものとする。



# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (12)

## 課題と施策 (ヒト/モノ/カネ)

### ★教育現場の課題 ～文科省の施策活用～

- 講師不足 …企業連携(企業からの講師派遣、オンライン授業、AIチューター)
- 学生不足 …奨学金確保、就職先確保、最先端の教育環境
- 魅力ある教育 …専門教育の実施(インターン実習、臨地実務実習、産学連携プロジェクト) 先進の教育環境(Hybrid) 先端スキル習得(ITクリエイター、セキュリティ、生成AI、データサイエンティスト)
- 就職先確保 …企業連携(企業奨学金、専門教育連携)



- ◆学校が求めるもの…学生 (どうしたら学生が集まるか?) …講師 (どうしたら講師が集まるか?)
- ◆学生が求めるもの…魅力的な就職先/魅力的な講師 (ヒト) …学びの場所/魅力的な教育設備 (モノ) …安価な授業料(奨学金) (カネ)



# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (13)

## 課題と施策 (ヒト/モノ/カネ)

### ★市町村の課題

若者流出抑制  
税収確保

～企業版ふるさと納税活用/クラウドファンディング等の外部資金活用～  
…産業振興 (企業支援・修学支援による県内就職促進)  
…IT企業誘致(安定した雇用先の確保)

### ★企業の課題

…厚労省/経産省の施策活用  
慢性的なIT人材不足  
上流工程の業務不足(給与上昇)  
社員定着(給与上昇)  
社員スキル向上(DX化と業務効率化)



# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (14)

## ④ 意見交換内容テーマ 1

沖縄県内の企業が求めるIT人材と、沖縄県内の学校で育成されるIT人材との間にミスマッチが生じている可能性について、参加企業様から以下のような意見を頂戴いたしました。

- ・ 感覚として、必要な技術を取得した人材がいないのではないかと。
- ・ 沖縄県内の中小企業は東名阪の大手企業へニアショアとして低コストをアピールしている傾向があるが、その結果、中流～下流工程が多くなり、売上や利益で不利になってしまう。沖縄県内企業のアピールの仕方に問題があるのではないかと。
- ・ どういった人材を育成していくかを決めたほうがいい。
- ・ 沖縄県から出ていくにしても数年したら戻ってくるのか。どれだけ戻ってくるのか。
- ・ 肌感覚でいいので、まずは情報共有して沖縄県や市が統計データを提供していくべきなのではないかと。

⇒ (事務局) 今求められる人材育成か、数年後を見据えた人材育成とすべきかは現在協議中。一度カリキュラムで認可が下りると簡単に換えられないため、慎重に意見交換しながら進めていきたいと思う。

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (15)

## ⑤ 意見交換内容テーマ2

課題解決を目指すにあたり、学校・企業・自治体への期待すること（要望）があれば教えてください、というテーマに対して、参加企業の皆様から以下のようなご意見をいただきました。

- ・沖縄は若年層が他県より多く、ITの専門学校が多いため企業としては関心を持っている。
- ・IT技術は企業の業種によって対応しないといけないため、最初に（1年目の教養として）こういった技術が必要かを説明するようなカリキュラムが必要なのでは？
- ・企業との連携が必要だが、そういったカリキュラムは作っていききたい。全国でみてもカリキュラム単位での企業連携が強固な専門学校が少ないのでは？
- ・学生は学んでいる知識が何のために使われていくのかを分かっていないため、1年生の半年の期間を使い、沖縄県内の企業にこういった社会背景があり、どんなIT事業を展開しているのかを説明していくようなことがいいのではないか。

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (16)

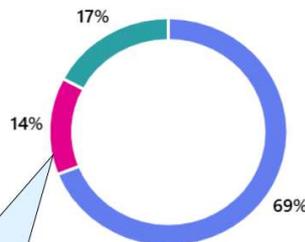
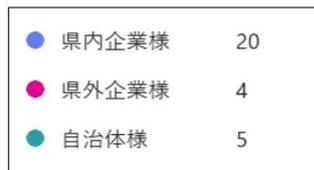
## (2) 企業等アンケートの実施

意見交換会開催後、沖縄県情報産業協会様の協力を得て以下のアンケートを実施し、以下のとおり企業・団体様にご回答いただきました。

### ■ 回答について

回答数 29件です。

### <回答者内訳>



### 県外企業4件の内訳

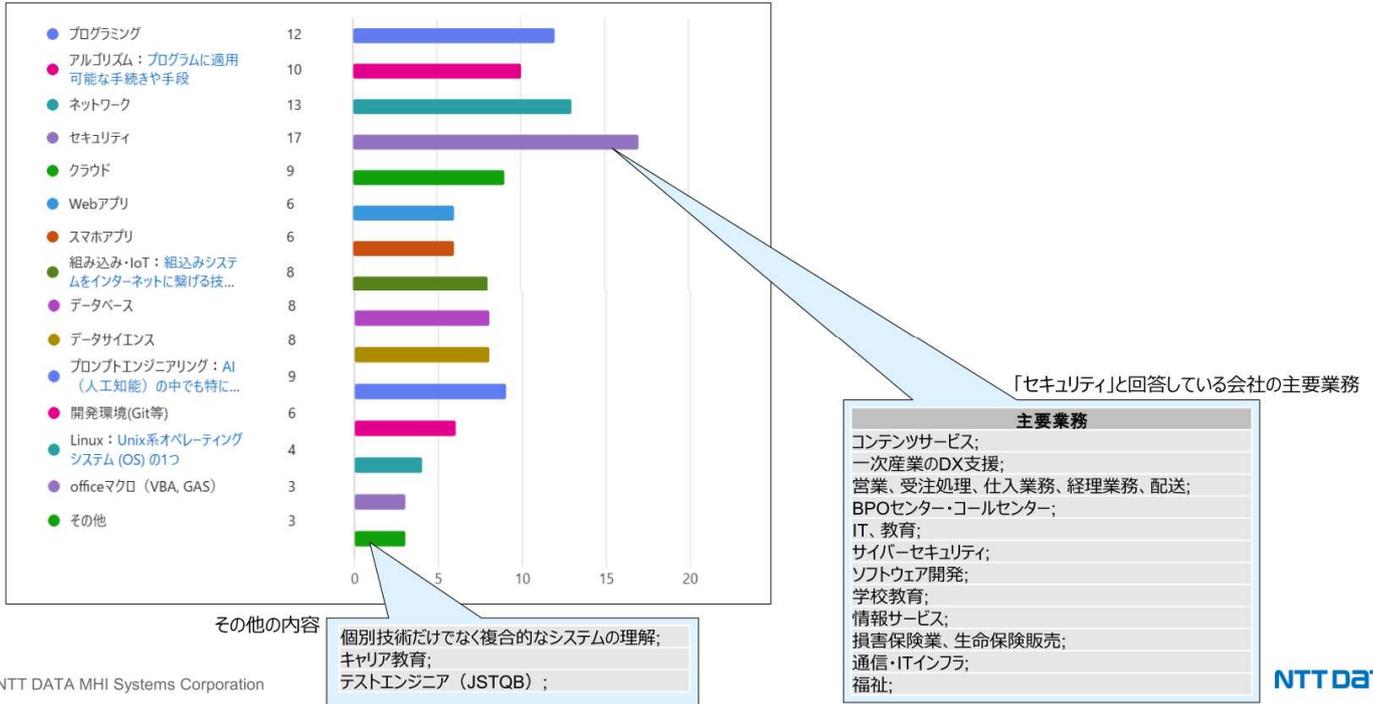
主要業務	従業員数	0-49人	総計
コンテンツサービス;		1	1
ソフトウェア開発;一次産業のDX支援;		1	1
営業、受注処理、仕入業務、経理業務、配送;		1	1
知財コンサル;		1	1

### 県内企業20件の内訳

主要業務	従業員数	0-49人	50-99人	100-299人	300人以上	総計
BPOセンター・コールセンター;ソフトウェア開発;通信・ITインフラ;				1		1
BPOセンター・コールセンター;情報サービス;コンテンツサービス;ソフトウェア開発;		1				1
IT、教育;		1				1
キャリア教育支援;		1				1
サイバーセキュリティ;			1			1
ソフトウェア開発;			2	1		3
ソフトウェア開発;情報サービス;				1		1
学校教育;		1				1
情報サービス;			1		2	3
情報サービス;ソフトウェア開発;		2				2
損害保険業、生命保険販売;					1	1
通信・ITインフラ;				1	1	2
通信・ITインフラ;BPOセンター・コールセンター;				1		1
福祉;		1				1

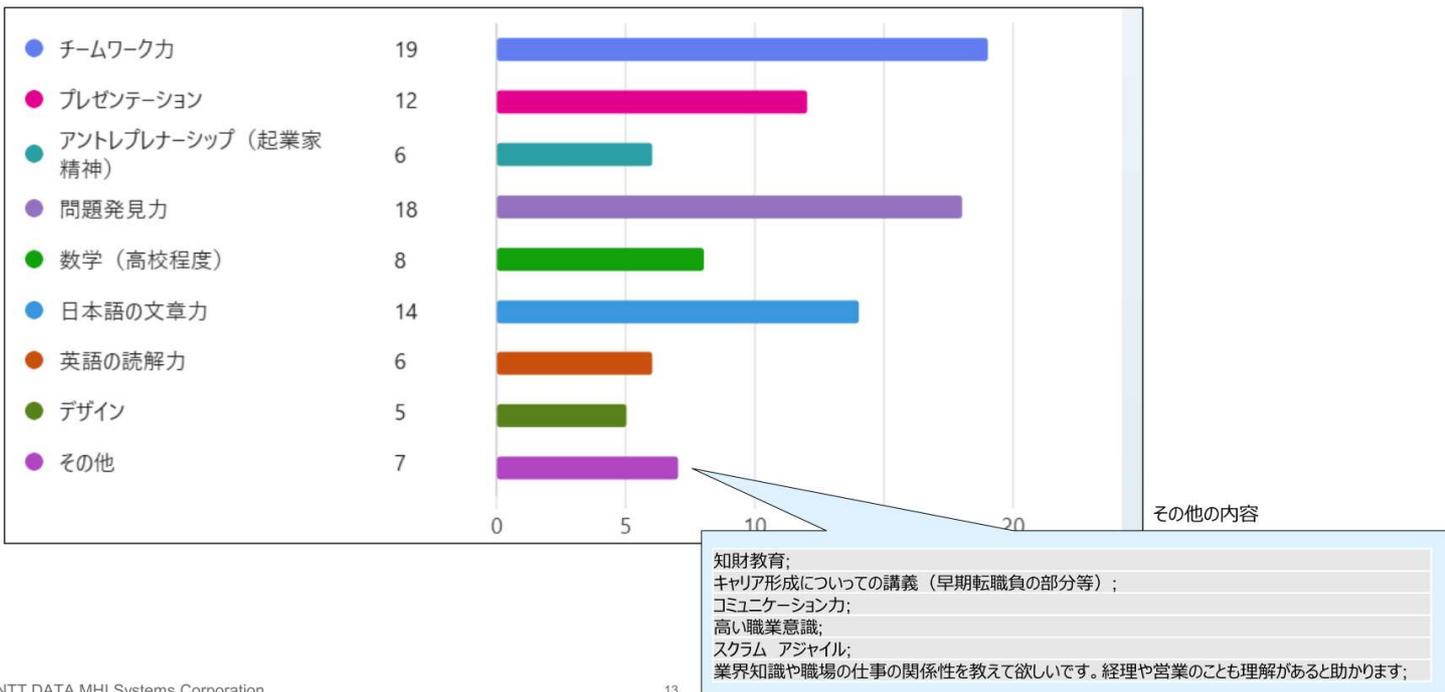
# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (17)

## ■ 専門学校で育成してほしい専門技術



# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (18)

## ■ 専門学校で育成してほしい専門技術以外の技術



# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (19)

## ■ 新入社員に期待する資格 (ITパスポート等)

● 資格は必須	1
● 資格があれば実践力は問わない	0
● 資格はあったほうがよい	11
● 資格は無くても実践力があればよい	12
● 資格や実践力が無くても自社で教育できる	1

「資格や実践力が無くても自社で教育できる」と答えた会社の主要業務と従業員数

主要業務	従業員数
ソフトウェア開発;情報サービス;	100-299人

「資格は必須」と答えた会社の主要業務と従業員数

主要業務	従業員数
学校教育;	0-49人

資格 = 教員免許

「資格は無くても実践力があればよい」と答えた会社の主要業務と従業員数

主要業務	従業員数
BPOセンター・コールセンター;情報サービス;コンテンツサービス;ソフトウェア開発;	0-49人
IT、教育;	0-49人
ソフトウェア開発;	100-299人
ソフトウェア開発;	50-99人
ソフトウェア開発;一次産業のDX支援;	0-49人
情報サービス;	300人以上
情報サービス;ソフトウェア開発;	0-49人
損害保険業、生命保険販売;	300人以上
福祉;	0-49人

「資格はあったほうがよい」と答えた会社の主要業務と従業員数

主要業務	従業員数
BPOセンター・コールセンター;ソフトウェア開発;通信・ITインフラ;	100-299人
キャリア教育支援;	0-49人
コンテンツサービス;	0-49人
サイバーセキュリティ;	50-99人
ソフトウェア開発;	50-99人
営業、受注処理、仕入業務、経理業務、配送;	0-49人
知財コンサル;	0-49人
通信・ITインフラ;	300人以上

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (20)

## ■ リカレント制度やリスキリングに新設校を活用するか

● はい	3
● いいえ	6
● 内容次第では検討する	16

主要業務	従業員数	どの分野
コンテンツサービス;	0-49人	セキュリティ;クラウド;データサイエンス;プロンプトエンジニアリング;
ソフトウェア開発;	50-99人	プログラミング;
福祉;	0-49人	Webアプリ;スマホアプリ;プロンプトエンジニアリング

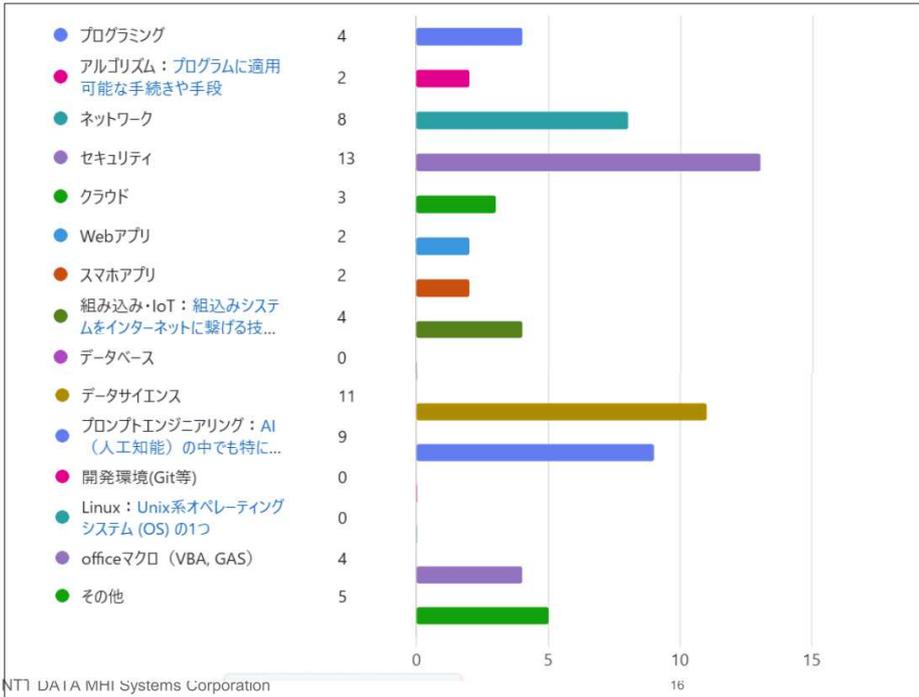
「活用すると」答えた会社の主要業務と従業員数と活用分野

「内容次第では検討する」と答えた会社の主要業務と従業員数と活用分野

主要業務	従業員数	どの分野
BPOセンター・コールセンター;情報サービス;コンテンツサービス;ソフトウェア開発;	0-49人	アルゴリズム
IT、教育;	0-49人	データサイエンス;プロンプトエンジニアリング;officeマクロ (VBA, GAS) ;
サイバーセキュリティ;	50-99人	セキュリティ;
ソフトウェア開発;	100-299人	Webアプリ;スマホアプリ;
ソフトウェア開発;	50-99人	プロンプトエンジニアリング;データサイエンス;ネットワーク;セキュリティ;組み込み・IoT;
ソフトウェア開発;情報サービス;	100-299人	officeマクロ (VBA, GAS) ;ネットワーク;
営業、受注処理、仕入業務、経理業務、配送;	0-49人	ネットワーク;セキュリティ;クラウド;
学校教育;	0-49人	データサイエンス;ネットワーク;セキュリティ;
情報サービス;	300人以上	officeマクロ (VBA, GAS) ;プロンプトエンジニアリング;プログラミング;
情報サービス;	300人以上	アルゴリズム;データサイエンス;セキュリティ;ネットワーク;
情報サービス;	300人以上	officeマクロ (VBA, GAS) ;セキュリティ;データサイエンス;プロンプトエンジニアリング ; ;組み込み・IoT;
情報サービス;ソフトウェア開発;	0-49人	プロンプトエンジニアリング;データサイエンス;
損害保険業、生命保険販売;	300人以上	セキュリティ;データサイエンス;
知財コンサル;	0-49人	知財の保護;
通信・ITインフラ;	300人以上	プログラミング;ネットワーク;セキュリティ;クラウド;組み込み・IoT;データサイエンス;プロンプトエンジニアリング;

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (21)

## ■リカレント制度やリスキリングを期待する分野について



© 2024 NTT DATA MHI Systems Corporation

NTT DATA

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (22)

## アンケート結果 (補足)

<考察ポイント>  
新卒採用に求める専門技術と差がある

### ■新卒採用に求める専門技術とリカレント制度やリスキリングに求める専門技術の比較

専門技術	新卒採用に求める技術	リカレントで求める技術	比較
プログラミング	12	4	↓ -8
アルゴリズム	10	2	↓ -8
ネットワーク	13	8	↓ -5
セキュリティ	17	13	↓ -4
クラウド	9	3	↓ -6
Webアプリ	6	2	↓ -4
スマホアプリ	6	2	↓ -4
組み込み・IoT	8	4	↓ -4
データベース	8	0	↓ -8
データサイエンス	8	11	↑ 3
プロンプトエンジニアリング	8	9	↑ 1
開発環境(Git等)	6	0	↓ -6
Linux	4	0	↓ -4
officeマクロ（VBA, GAS）	3	4	↑ 1
その他	3	0	↓ -3

新卒採用に「プログラミング」を求めた会社がリカレント・リスキリングに求める専門技術

データサイエンス	7
プロンプトエンジニアリング	6
セキュリティ	5
...	
プログラミング	2
アルゴリズム	2

新卒採用に「データベース」を求めた会社がリカレントに求める専門技術

データサイエンス	4
プロンプトエンジニアリング	4
セキュリティ	3
組み込み・IoT	2
...	
データベース	0

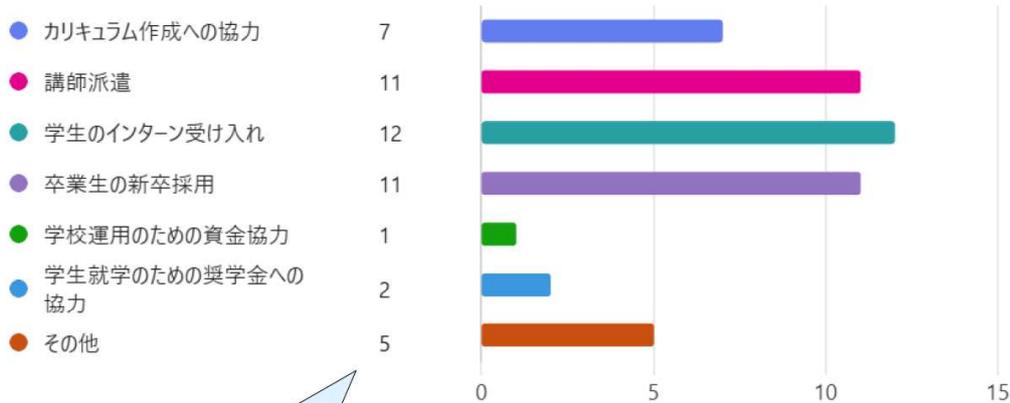
© 2024 NTT

17

NTT DATA

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (23)

## ■ 企業様における新設校への協力

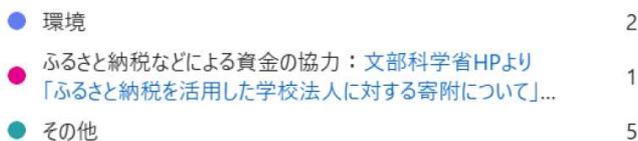


### その他の内容

キャリア教育の支援;  
事務用品、OA機器、施設家具類等;  
ご協力可否について検討;  
学生のインターン受け入れ;弊社業種で何かご協力が出来ることがあれば教えてほしい;

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (24)

## ■ 自治体様における新設校への協力



### その他の内容

企業等への貴校の紹介;  
環境;ふるさと納税も含めて処々検討中;  
何を、どの程度協力できるのか、今後の進捗等を踏まえながら検討していきます;  
環境;  
ふるさと納税などによる資金の協力;中城湾港新港地区内立地企業への企業見学バスツアーなどの就職に向けた支援;

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (25)

## ■全体を通して新設校に求めること（自治体、県外企業）

区別	主要業務	その他、全体を通して新設校に求めることをお聞かせください
自治体		沖縄県内の状況や企業のニーズを踏まえたカリキュラムを検討されているとのこと、IT関連産業の振興につながるという点で大変期待をしております。今後ともよろしくお願いたします。
自治体		提案する際に必須となるコミュニケーション力・プレゼン力の向上
自治体		・映像関係、ゲームクリエイターなど多岐にわたる人材育成の場となってほしい。
自治体		IT人材の輩出及び県内企業への就職に結びつくような取り組み（企業の魅力や認知度向上など） また、企業サイドからの人材獲得に期待する視点の強い盛り上がり方となっている様に感じるが、一定数の入学希望学生を募れるような学生が新設校に関心が持てるような仕掛け。
自治体		若者を地元企業に就職させるような誘導が必要。県外に流出させない取り組みが必要。
県外企業	コンテンツサービス;	技術力と合わせて、その技術をどこで使うのかを考えられる人材となれるように指導をして欲しいです。 また、人事の方にお話を聞くと、考えられる人材などが求められていると感じます。特定のカリキュラムを一時的に行うような授業スタイルではなく、考えることを中心としつつディスカッションが多い授業になると良いと感じます。
県外企業	ソフトウェア開発;一次産業のDX支援;	貴社の福祉教育の強みを生かして、福祉 x I T を推進して、県内の高齢化社会・介護サービスの課題解決に資する人材を輩出して欲しい。
県外企業	営業、受注処理、仕入業務、経理業務、配送;	IT・DXの知識の育成
県外企業	知財コンサル;	海外で通用するスキルとマインドを育てること

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (26)

## ■全体を通して新設校に求めること（県内企業）

区別	主要業務	その他、全体を通して新設校に求めることをお聞かせください
県内企業	IT、教育;	卒業後の進路目標や育成計画（どのような人材を育成し、卒業生が沖縄の産業にどのように貢献することがゴールか）を完全に把握していないのですが、場所に限らず沖縄のために既存の業態や慣習にとらわれずに活躍できるような人材を排出していただけると幸いです。
県内企業	キャリア教育支援;	開発能力などは必須と思いますがプレゼンテーションなどの伝える能力、チームワーク等含め人間力を育成していただきたい
県内企業	サイバーセキュリティ;	サイバーセキュリティの専門的な教育をしていただけると嬉しいです。 その領域では場合によっては講師派遣も検討させていただきます。
県内企業	ソフトウェア開発;	IT技術は適用する業種・業態の業務内容を理解した上で適用しないと、色々な意味で大きな成果が得られないと思うので、業種・業態の業務内容を理解する授業があってもよいかと思います。
県内企業	ソフトウェア開発;	将来有望な人材を教育して送り出して欲しい
県内企業	ソフトウェア開発;	IT業就業に対する責任感、やりがい、目標（目指す技術者像）を持たせて欲しい。
県内企業	ソフトウェア開発;情報サービス;	専門学校は資格取得に過剰に力点を置いているように見えます。弊社でもかつては採用していましたが、入社時にプログラミングや知識を若干持っているものの入社後の伸びしろが低く、言われたことをやるのみの社員となってしまいました。そうではない方も多いとは思いますが、強固な職業意識を持った方を期待したい。学校の2年間よりもはるかに長い時間を社会人として過ごす土台として。
県内企業	情報サービス;	出資に関しては、もう少し実態感があれば検討可能かと存じます。
県内企業	情報サービス;	即戦力の技術特化ではなく、入社後に困らない程度のITリテラシーを学んでもらえると、企業でも幅広く活躍の可能性があると思います
県内企業	情報サービス;ソフトウェア開発;	他の専門学校と何が違うのかわからないので特色を明確にしてください。そうでないと単なる後発校になってうまく行かないと思います。学生には探求心や粘り強さも教えて欲しいです。
県内企業	情報サービス;ソフトウェア開発;	特になし。
県内企業	損害保険業、生命保険販売;	専門的なスキルの習得はとても魅力的ではございますが、社会に出てしっかり活躍してもらうためにも、社会人基礎力も合わせた育成を頂けると、受け入れ側としては大変ありがたく存じます。
県内企業	通信・ITインフラ;	現状特になし
県内企業	福祉;	ITリテラシーの向上、仕事に対する意識向上がもてる学生を育ててほしい！
県内企業	学校教育;	高校・専門学校連携があっても良いと思います。様々な講義を受講させていただき、進路選択への道筋をつけてあげることが可能となり、御校での在籍者数の確保につながるかと考えます。同時に、奨学金や特待生などの制度があれば、より一層その方向性の進路意思確定が早くなるのではないのでしょうか。新設校の最大のアドバンテージは、他よりもカリキュラムはもちろんのこと、施設整備の充実が肝となります。首都圏や主要都市に出なくとも、その教育が受けられる、恩恵が受けられることが最大のポイントだと感じています。特にIT系に偏らず、アントレプレナーシップ教育に特化するシーンもあってよいと思いました。沖縄には、アントレプレナーシップの素地があり、コザスタートアップ商店街やISCOとの提携もあれば横展開も十分可能です。事実、仙台育英学園沖縄高等学校では、上記団体と協定を結ぶことで様々な関係性を構築することができました。「ご協力できる範囲で」という条件付きではございますが、何かあればご連絡いただければ幸いです。

# 1 ヒヤリング調査及び企業等アンケート (27)

## (3) まとめ

調査結果に基づく意見交換会でのご意見やアンケートの結果から、現在検討中の学科（学校）の内容が具体的に提示されない限り、要望は出せても具体的なご意見をいただくのは難しいという印象を受けました。そのため、ある程度のたたき台を用意する必要があったと感じております。

その結果、調査段階で必要なことは話をしたとする企業様との間にギャップが生じてしまい、協力内容に関しても、特に資金面での協力は厳しい結果となってしまいました。

加えて、他校との差別化についても分かりにくいのご意見があり、説明不足であったと反省しております。この点については、例えば、非常勤講師を依頼する際、一般的には個人と契約し授業を担当していただくのですが、新設学科では学校と協力企業で連携協定等を締結し、企業に講師を選定・派遣していただき、企業が見えるようにするといったことを検討しております。今後、こうした構想についても議論するとともに、これまでのご意見を踏まえ検討したカリキュラム（概要）を再度、協力企業・団体様にフィードバックし、具体的な協力体制について本格的に議論を進めてまいります。

具体的には、6月までにカリキュラムを作成し、講師や科目内容について検討できる体制を整えたいと考えております。

## 2 カリキュラム（概要）の作成（1）

### （1）育成すべきIT人材の定義の確認

調査結果に基づく意見交換会で寄せられたご意見やアンケート結果を踏まえ、県内企業が求める人材・技術と、県外で多く見られ、今後必要とされるであろう人材・技術の差が明確となりました。例えば、現在県内企業が求める人材の育成に焦点を当てたカリキュラムを作成した場合、入学した学生が卒業する5年後にはその人材が必要とされなくなる可能性があります。一方、AIやデータサイエンスなどの先端技術を習得する内容とした場合、5年後でも県内企業での受け入れ先がない可能性があります。このように、どこに焦点を合わせてカリキュラムを作成すべきかという難しい課題に直面していました。

一方、沖縄県情報産業協会様も同様の課題を抱えており、今後、会員である県内IT企業が成長するためには、二次受け、三次受けを中心とした現状に留まるのではなく、より上流工程の業務を請け負い、技術や給与を向上させる取り組みを進める必要があると考えておられました。そこで、双方が努力することを前提に、本事業で作成するカリキュラムは現状の半歩先の技術を有する人材の育成を目指すこととし、企業側でもそうした人材を受け入れられるよう努力を行うという方向で進めることとしました。

また、調査及び意見交換会の結果を踏まえ、数学と英語を基礎科目として配置するとともに沖縄県内の現状を実践的に学ぶ科目を配置することとしました。

## 2 カリキュラム（概要）の作成（2）

### （2）学科・コース構成とカリキュラム

以上を踏まえ検討したカリキュラム（概要）は次のとおりです。

デジタルフロンティア専門学校（仮称）

デジタルテクノロジー学科（仮称）

AIサイエンスコース（仮称）

デジタルエンジニアリングコース（仮称）

デジタルクリエイションコース（仮称）

## 2 カリキュラム（概要）の作成（3）

---

### ①カリキュラム編成の方針

- 企業現場のニーズに合わせた専門科目
- 座学よりもPBL形式の演習に重点を置いた授業
- IT企業エンジニアとの協働演習
- インターンシップの必修化による実践力の涵養
- 課題解決能力を育成するアントレプレナーシップ教育
- 数学、英語等の基礎学力科目を配置

## 2 カリキュラム（概要）の作成（4）

---

### ② 3つのコースで育成する人物像

#### AIサイエンスコース（仮称）

- 情報分野の先端技術に興味をもち、自ら課題を発見し解決に取り組むことができる
- Webアプリやスマホアプリなどフレームワークを用いた開発ができる

#### デジタルエンジニアリングコース（仮称）

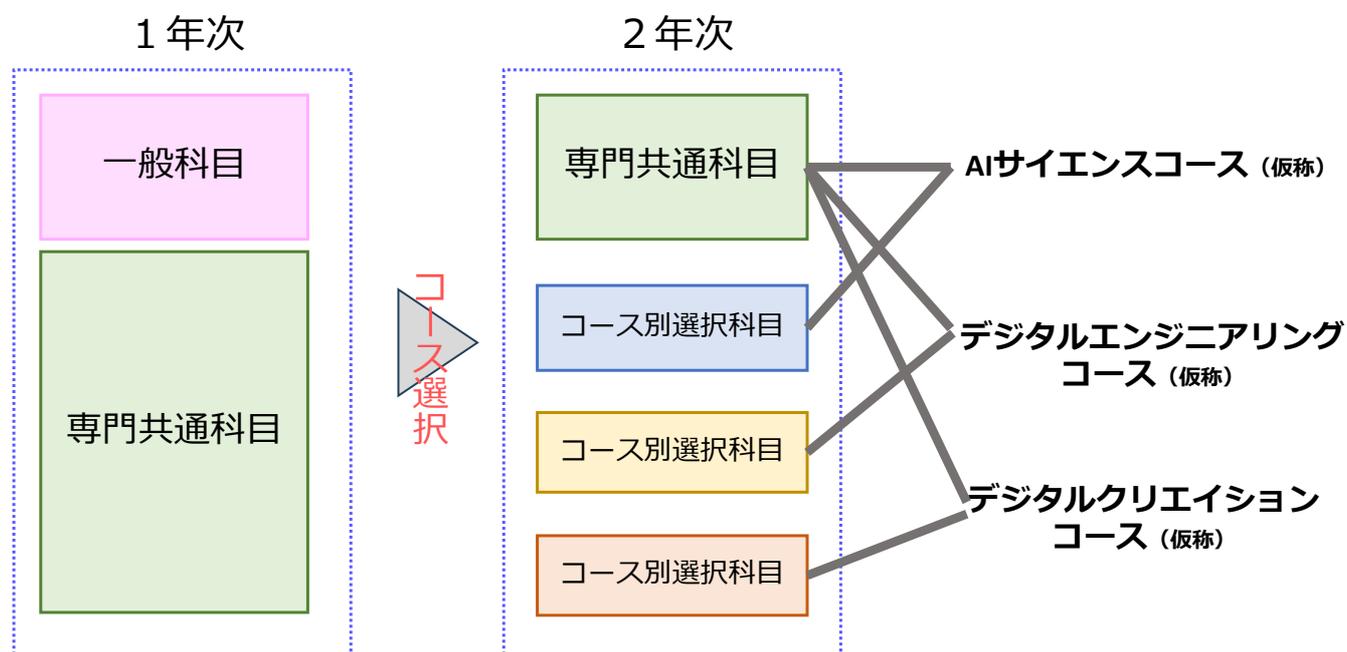
- IT技術に興味をもち、自ら学び続けることができる
- 基礎的なプログラミング能力を有し、与えられた課題に対して自ら調べながら解決することができる

#### デジタルクリエイションコース（仮称）

- PCの操作に抵抗がなく、新しい技術に対して積極的に取り組むことができる
- オフィスソフトを使いこなし、ノーコード・ローコードツールを用いた課題解決ができる

## 2 カリキュラム（概要）の作成（5）

### ③コース別カリキュラム構成



## 2 カリキュラム（概要）の作成（6）

### ④カリキュラム案・1年前期

#### コース共通科目

科目名	単位数	内 容
情報数学 I	4	情報処理に必要な数学の基礎を学ぶ
情報英語 I	2	情報処理に必要な英語の基礎を学ぶ
情報リテラシー I	4	情報処理に必要な基礎的なリテラシーを学ぶ
基礎プログラミング I	4	プログラミングの基礎スキルを習得する
県内企業研究 I ※	2	沖縄県内の情報産業を現状を各企業の人を招いて実践的に学ぶ
ビジネスソフト	4	Word, Excelの基礎的な使い方を取得する
プレゼンテーション	2	PowerPointを使い、自分の意見を発表する力を習得する
キャリアデザイン	2	社会の仕組みを学び、自分のキャリアについて考える
アントレプレナーシップ I	2	課題の発見とその解決方法について学ぶ

※2025年1月15日に開催された意見交換会での議論によって追加された科目

## 2 カリキュラム（概要）の作成（7）

### ⑤カリキュラム案・1年後期

#### コース共通科目

科目名	単位数	内 容
情報数学Ⅱ	2	情報処理に必要な数学の基礎を学ぶ
情報英語Ⅱ	2	情報処理に必要な英語の基礎を学ぶ
情報リテラシー	4	情報処理に必要なリテラシーを学ぶ
基礎プログラミングⅡ	4	プログラミングの基礎スキルを習得する
県内企業研究Ⅱ※	2	沖縄県内の情報産業を現状を各企業の人を招いて実践的に学ぶ
インターンシップⅠ	8	企業での実習を通して、学んでいることの意味付けを学ぶ
アントレプレナーシップⅡ	2	課題の発見とその解決方法を提案する力を涵養する
コンピュータシステム	2	コンピュータのハードウェア、ソフトウェア構成について学ぶ

※2025年1月15日に開催された意見交換会での議論によって追加された科目

## 2 カリキュラム（概要）の作成（8）

### ⑥カリキュラム案・2年前期（1）

#### コース共通科目

科目名	単位数	内 容
課題研究	8	学んだことを生かし課題解決を行う
インターンシップⅡ	8	学んだことが企業でどう生かされているかを実習を通して学ぶ

#### デジタルクリエーションコース

科目名	単位数	内 容
ビジネスソフト応用	4	Excelのマクロの作成スキルを習得する
Webデザイン	4	HTMLを使って簡単なWebページの作成スキルを習得する
キャリアデザイン	2	学んだことを生かした将来のキャリアを考える
ビジネス研究	2	社会を構成する企業について学ぶ

## 2 カリキュラム（概要）の作成（9）

### ⑦カリキュラム案・2年前期（2）

#### デジタルエンジニアリングコース

科目名	単位数	内 容
Webプログラミング※ <sup>1</sup>	4	Webページを構成するプログラミングスキルを習得する
モバイルアプリケーション※ <sup>1</sup>	4	モバイルアプリケーションの作成方法を学ぶ
Webデザイン※ <sup>2</sup>	4	HTMLを使って簡単なWebページの作成スキルを習得する

※1：AI・サイエンスコースと同クラス  
※2：デジタルクリエイションコースと同クラス

#### AI・サイエンスコース

科目名	単位数	内 容
Webプログラミング	4	Webページを構成するプログラミングスキルを習得する
モバイルアプリケーション	4	モバイルアプリケーションの作成方法を学ぶ
データベース	2	データベースの設計や操作方法を学ぶ
ネットワーク	2	ネットワークの基礎技術について学ぶ

## 2 カリキュラム（概要）の作成（10）

### ⑧カリキュラム案・2年後期（1）

#### コース共通科目

科目名	単位数	内 容
卒業制作	8	これまで学んだことを生かして、自ら設定したテーマに沿って
インターンシップⅢ	8	企業での実習を通して、学んでいることの意味付けを学ぶ

#### デジタルクリエイションコース

科目名	単位数	内 容
RPA演習	4	ノーコード/ローコードツールの使い方を習得する
映像制作	4	映像制作技術を学ぶ
ビジネス演習	4	ビジネスソフトを用いた実践的なスキルを身に着ける



## 2 カリキュラム（概要）の作成（13）

### ⑪時間割イメージ・1年前期

	月	火	水	木	金
1限 9:00-10:30	情報リテラシー I	基礎プログラミング I	ビジネスソフト	情報数学 I	情報英語 I
2限 10:40-12:10	情報リテラシー I	基礎プログラミング I	ビジネスソフト	プレゼンテーション	キャリアデザイン
3限 13:10-14:40	情報数学 I	アントレプレナーシップ I		県内企業研究 I	
4限 14:50-16:20					

## 3 理系新学科設置に係る広報活動（1）

### （1）各種イベントへの参加

理系新学科の広報活動の一環として、「ResorTech沖縄」や「官民MEET沖縄」、「ITフェスタ2025」など、沖縄県や企業、団体が主催する各種イベントに積極的に参加いたしました。これらのイベントを通じて、企業や団体、高校生の皆様に理系分野への興味・関心を持っていただく取り組みを行うとともに、新しい学科の開設について周知いたしました。

また、イベントへの参加にあたり、理系新学科のコンセプトをまとめたリーフレットや掲示用パネル、ノベルティなどを作成し、イベント来場者に立ち止まっていただけのような工夫するとともに、話を聞いていただいた方の記憶に残るよう準備をいたしました。

ただし、当該リーフレットやパネルは、提案書ベースの内容を記載し、企業や団体などの協力者を募ることを目的に作成しており、今年度検討する学科、コース、カリキュラム等の具体案については記載しておりません。

なお、ソーシャルワーク専門学校内に理系学科を開設することは難しいため、本事業と通して専門学校そのものを新設する方向で進めること、および当該学校名として「デジタルフロンティア専門学校（仮称）」を使用することについて学内で許可を取り、各イベントに出展し、広報活動を展開いたしました。

## 3 理系新学科設置に係る広報活動（2）

各イベントには、それぞれ出展の目的をもって参加いたしました。

### ・ ResorTech沖縄

IT企業を中心とする県内外の企業が一堂に会するイベントとして、これから検討するカリキュラムに対するご意見を賜ること、実際に科目担当として授業をお持ちいただくこと、学生向け奨学金の基金にご協力いただくことなど、対面で直接お願いできる貴重な機会と捉え、参加させていただきました。

### ・ 官民MEET沖縄

このイベントには多くの自治体が出展しているため、学校の新設に際し、土地や建物の誘致について対面で直接ご協力をお願いできる機会として位置づけておりました。また、資金集めのための企業版ふるさと納税へのご協力についても、直接ご相談させていただける貴重な機会と捉え、参加させていただきました。

### ・ ITフェスタ2025

高校生や大学生など若年層を対象としたイベントであるため、2027年4月に開校する新しい学校を学生に紹介する絶好の機会と捉え、参加させていただきました。

### 3 理系新学科設置に係る広報活動（3）

#### ① ResorTech EXPO in Okinawa（リゾテックエキスポ）

11月14日（木）～15日（金）に沖縄アリーナで開催された「ResorTech EXPO in Okinawa（リゾテックエキスポ）」に「デジタルフロンティア専門学校（仮称）」として出展いたしました。

「ResorTech EXPO in Okinawa」は、沖縄で開催される1万人規模のIT・DXの展示会商談会であり、沖縄県の全産業におけるDX推進と、観光地沖縄から国内外へのビジネス創出を促進するイベントとして県内外の企業・団体に広く知られております。

本イベントには、沖縄県内外のIT企業が多数出展しているため、本事業を進める上での協力者を募ることを目的として、唯一の教育機関として出展させていただきました。多くの方々のご協力をいただきながら、2日間で約800枚のリーフレットを企業、官公庁、学生の皆様に配布し、本事業への協力を呼びかけました。

当日名刺交換をさせていただいた企業・団体の皆様には、イベント終了後にお礼のメールを送付させていただくとともに、カリキュラムの作成や寄付金、学校誘致などについて改めてご協力をお願い申し上げましたところ、複数の企業様よりご協力のご了承をいただくことができました。

### 3 理系新学科設置に係る広報活動（4）



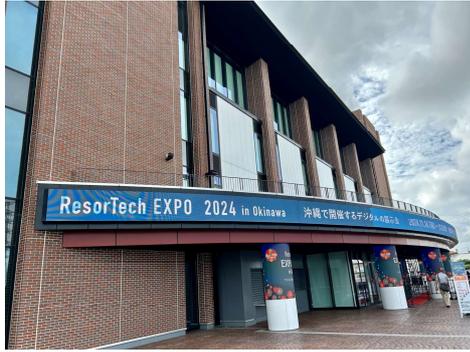
リーフレット

← ポスター

ノベリティ →



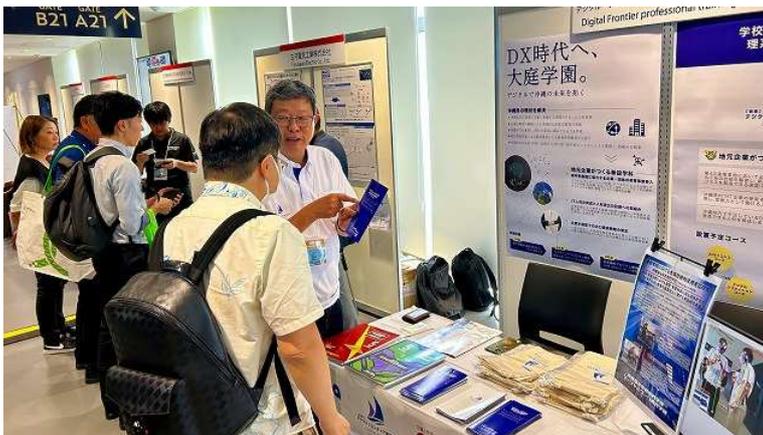
### 3 理系新学科設置に係る広報活動（5）



沖縄アリーナ



### 3 理系新学科設置に係る広報活動（6）



### 3 理系新学科設置に係る広報活動（7）

#### ② 官民MEET沖縄

12月20日（金）に那覇商工会議所で開催された「官民MEET沖縄」において、「デジタルフロンティア専門学校（仮称）」として出展し、リーフレットを県内外の企業や官公庁の皆様へ配布するなど、リゾテック沖縄と同様のPR活動を実施いたしました。

本イベントは、日頃接点の少ない自治体と民間事業者が情報交換を行い、今後の地域課題解決に向けた官民連携を促進することを目的に、内閣府・地方創生SDGs官民連携プラットフォームの主催で開催されました。

沖縄県南部土木事務所、宜野湾市、糸満市、豊見城市、東村、今帰仁村、恩納村、西原町、渡名喜村、竹富町、与那国町などの多くの自治体に参加予定であり、学校誘致の交渉を目的に参加いたしました。また、会場にて内閣府企業版ふるさと納税マッチングアドバイザーの鷲見様とお会いし、自治体のふるさと納税制度の設計上限についてご相談させていただきました。

当日名刺交換をさせていただいた企業・団体の皆様には、イベント終了後にお礼のメールを送付させていただくとともに、カリキュラムの作成や寄付金、学校誘致などについて改めてご協力をお願い申し上げましたところ、複数の企業様よりご協力のご了承をいただくことができました。

### 3 理系新学科設置に係る広報活動（8）



### 3 理系新学科設置に係る広報活動（9）

#### ③ハイブリッドスタイルITフェスタ2025

1月12日（日）～1月13日（月・祝）にともかぜ振興会館で開催された「ハイブリッドスタイルITフェスタ2025」において、「デジタルフロンティア専門学校（仮称）」として出展し、リーフレットを県内外の企業や官公庁の皆様へ配布するなど、それまでと同様のPR活動を実施いたしました。

本イベントは、沖縄県内の学校・団体・企業によるIT体験イベントで、高校生・大学生など幅広い世代の学生が学習成果を発表し、企業や団体が製品・サービス・活動内容を展示していました。

本校は、昨年度まで文科省より受託していた「先端技術利活用実証事業」の成果物の一つの骨格推定に関わる展示をして、開発の目的や福祉の学校でもIT技術を取り入れた授業を行っていることをアピールいたしました。

同イベントには宮崎県から文科省の委託事業を受託している宮崎情報ビジネス専門学校様も来場され、高専連携や企業との協働に関して情報交換をさせていただきました。

当日名刺交換をさせていただいた企業・団体の皆様には、イベント終了後にお礼のメールを送付させていただくとともに、カリキュラムの作成や寄付金、学校誘致などについて改めてご協力をお願い申し上げましたところ、複数の企業様よりご協力のご了承をいただくことができました。

### 3 理系新学科設置に係る広報活動（10）



### 3 理系新学科設置に係る広報活動（11）

#### ResorTech沖縄にて名刺交換させていただいた企業・団体様一覧

CBcloud	株式会社TREEDigitalStudio
NewQuest株式会社	株式会社アルク
OTNet株式会社	株式会社イード
TOPPANデジタル株式会社	株式会社ヴィッツ沖縄
インタラクティブ株式会社	株式会社ウェルビーイングケア沖縄
グッドニュースファーム合同会社	株式会社エーエルジェイ
ジョルダン株式会社	株式会社オーシーシー
テクノアルファ株式会社	株式会社オキジム
デジタル株式会社	株式会社オキット
デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社	株式会社おきなわフィナンシャルグループ
ファーストライディングテクノロジー株式会社	株式会社グローバルウェイ
沖縄セルラー電話株式会社	株式会社コマス
楽天グループ株式会社	株式会社システムシェアード
株式会社BUG	株式会社スピア
株式会社FUNIT.	株式会社セキュアイノベーション
株式会社okicom	株式会社ソルパック
株式会社TAGラボ	株式会社タップ

### 3 理系新学科設置に係る広報活動（12）

#### ResorTech沖縄にて名刺交換させていただいた企業・団体様一覧

株式会社トラベルコネクト	うるま市
株式会社ニッポンダイナミックシステムズ	うるま市教育委員会
株式会社ベリサーブ沖縄	沖縄県
株式会社ペリテック	沖縄県東京事務所
株式会社ラピラス	沖縄市議会議員
株式会社レイメイ藤井	東村
株式会社レキオス	豊見城市
株式会社沖縄銀行	沖縄県立名護商工高等学校
株式会社沖縄産業振興センター	学校法人KBC学園インターナショナルリゾートカレッジ
株式会社国際システム	学校法人KBC学園国際電子ビジネス専門学校
株式会社東急コミュニティー	学校法人仙台育英学園
株式会社保険ビルド	学校法人南星学園サイ・テク・カレッジ美浜
株式会社琉球通運航空	一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センター
三井情報株式会社	一般社団法人沖縄県専修学校各種学校協会
大同火災ビジネスパートナーズ株式会社	一般社団法人生成AI活用普及協会
大同火災海上保険株式会社	一般社団法人琉球経済戦略研究会(日本国際貿易促進協会沖縄分会)
知財コンサルT	一般社団法人沖縄観光DX推進機構

### 3 理系新学科設置に係る広報活動（13）

#### 官民MEET沖縄

#### ITフェスタ2025

にて名刺交換させていただいた企業・団体様一覧

FROGS	株式会社サン・エージェンシー
NIJINアカデミー那覇校	沖縄情報経理専門学校
株式会社TORAT	学校法人宮崎総合学院学校法人九州総合学院
株式会社インターネットイニシアティブ	株式会社LeftFootGames
株式会社ウィットワン沖縄	株式会社あしびっとワークス
株式会社サン・パーティー	株式会社ウェブサイト
株式会社タイミー	株式会社ケイオーパートナーズ
株式会社官民連携事業研究所	株式会社モノつく
株式会社大成ホーム	宮崎情報ビジネス専門学校
株式会社長大	公益財団法人沖縄県産業振興公社
離島未来ラボ	
那覇商工会議所	
恩納村SDGs推進事務局	
豊見城市	

### 3 理系新学科設置に係る広報活動（14）

#### ④ まとめ

事業がスタートした9月末から、各種イベントへの参加準備を急ピッチで進めてまいりました。準備期間が短かったものの、体裁は整い、企業や自治体、高校生へのPR活動は順調に進行いたしました。

しかしながら、学校の中身やカリキュラム、授業内容、輩出する人材など、いわゆる3つのポリシーを明確に示すことができなかつたため、計画には興味を持っていただき、期待のお言葉も頂戴しましたが、具体的な協力内容に関しては話が進まない状況が続いております。

本来であれば、学校の設置場所、対象とする学生の学力レベル、卒業後に備わるスキル分野や人物像、インターンシップや採用における学生受け入れなどの協力依頼について、ある程度具体的な内容を詰めた上でイベントに参加し、ご協力をお願いするべきでした。しかし今回は、その順序が逆になってしまったため、沖縄県情報産業協会様からの十分なご協力も得ることができなかつたと考えております。

次年度に向けて、今からできることを一つひとつクリアし、今回構築したネットワークを活用して、関係企業や団体の皆様に具体的な協力事項をお示しできるよう、準備を進めてまいります。

### 3 理系新学科設置に係る広報活動（15）

#### （2）県内高校等への出前授業の実施

令和6年度における理系新学科の開校準備の一環として、沖縄県立陽明高等学校で出前授業を実施いたしました。この授業を通じて、高校生の皆様に理系学科への興味を持っていただくことを目的としております。また、同イベントにおいては、高校生や教員の皆様に広く周知活動を行い、次年度以降の募集活動に繋がるよう努めました。

授業は本校特任教員の正木先生が担当し、数名のスタッフが授業をサポートする体制で実施いたしました。

授業の詳細は以下の通りです。

対象科目：1年次「産業社会と人間」45分～50分授業2コマ

授業内容：

- ・ ITって一体なに
- ・ ITを仕事にすることとは
- ・ これから何を学べば良いのか

### 3 理系新学科設置に係る広報活動（16）

2月18日（火） 11:05-11:50, 12:00-12:45（1年6組 35名）

#### ① 講義

ITが様々な分野で活用され、現代の生活に深く根付いていることを理解することをテーマに実施いたしました。

ITって何の略？

ITを使ったものはふたつに分けられる

- ・ ITを使ったサービス
- ・ ITを使った製品

ITを使ったサービス



ITを使った製品



### 3 理系新学科設置に係る広報活動（17）

#### IT業界の分類



### 3 理系新学科設置に係る広報活動（18）

#### インターネット/Web業界

インターネットを通じたサービス提供をする会社



#### 情報処理サービス業界

システムを用いて顧客の課題を解決する会社



#### ソフトウェア業界

ユーザーのニーズに合ったソフトウェアを開発する会社



#### 通信業界

インターネットやWi-Fiなどの通信回線など通信インフラを担う会社



#### ハードウェア業界

デバイスや機械、設備を製造する会社



### 3 理系新学科設置に係る広報活動（19）

県内のIT企業は何社あるでしょうか？

将来、どんな仕事に就いてもITを使わない仕事はない

791社（令和5年）

将来、ITを使いこなすために今勉強すべきことは？

沖繩の企業がつくるITを学ぶ専門学校

2027年4月開校予定

【(仮称) デジタルフロンティア専門学校】  
DIGITAL FRONTIER  
Technical College

### 3 理系新学科設置に係る広報活動（20）

本出前授業では、理系に興味を持っていただくことを目的に、スライドにあるようなITについての理解やITを使ったサービス、製品についての調べ学習などを中心に実施いたしました。今回参加した陽明高校の生徒の多くがITに興味がなく、将来もITに関する仕事には就かないと考えていたため、まずは生徒たちが普段使っているスマホやゲームなどもIT技術が駆使されており、IT技術を利用する側であることを理解してもらうように努めました。どちらかという、業界研究的な要素が濃くなった印象もありますが、製品やサービスからそれらに関わる企業の順に調べてもらい、多くの企業が一つの製品やサービスに関わっていることを知っていただきました。

具体例として、Google検索を行う際には、沖縄の場合、糸満市の基地局から海底ケーブルを通じて本土～ハワイ～アメリカ本土までデータが送られ、逆ルートで結果が返される仕組みになっています。この過程ではiPhoneを製造するApple社だけでなく、携帯電話を契約するキャリアや海底ケーブル等の管理会社など、さまざまな企業が関わることで検索が成り立っていることなどを説明した上で、沖縄県にもこうしたサービスや製品を提供する会社があることを知っていただくため、IT技術を5分野に分け、それぞれの分野に属する企業を調べていただきました。こうした取り組みにより、少しでも沖縄県のIT企業を知っていただく機会とし、今後の連携先や就職先の企業を認知していただくことを期待しております。

### 3 理系新学科設置に係る広報活動 (21)



2月18日の講義



### 3 理系新学科設置に係る広報活動 (22)

#### ② グループワーク1

#### グループワーク (1)

10分

- ITを使っているもので思い付いたもの  
ポストイットに書く
- 書いたものをA4用紙に分類する
- グループ毎に発表する

グループ毎に発表しましょう

発表すること

ITを使ったもの  
どう分類したのか



### 3 理系新学科設置に係る広報活動 (23)

#### ③ グループワーク2

##### グループワーク (2)

20分

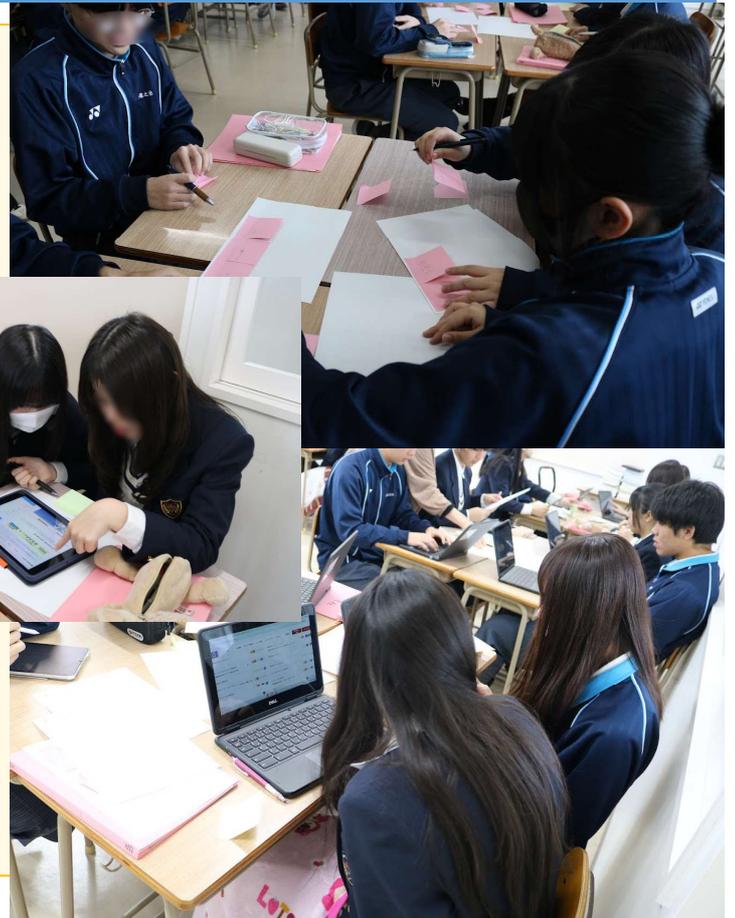
- 県内IT企業を調べる
- その企業が5つの業界のどれかを調べ、A4用紙に貼る
- グループ毎に発表する

グループ毎に発表しましょう

発表すること

##### 5つに分類した企業名

- ・ インターネット/Web業界
- ・ 情報処理サービス業界
- ・ ハードウェア業界
- ・ 通信業界
- ・ ソフトウェア業界



### 3 理系新学科設置に係る広報活動 (24)

2月19日 (水) 11:15-12:05, 12:15-13:05 (1年4組 28名)



### 3 理系新学科設置に係る広報活動（25）

#### ④ 出前授業のアンケート結果

出前授業の生徒アンケート結果は、以下のピボットチャートをご覧ください。2日間の受講者（60名）の回答を集計した結果、「今回の授業を友人や家族に勧める可能性」の平均は平均は6.1、「今日紹介した新しい理系の学科を友人や家族に勧める可能性」の平均は5.87となりました。



### 3 理系新学科設置に係る広報活動（26）

#### ⑤ まとめ

生徒を対象としたアンケートの結果、出前授業の内容および新設学科に対する期待度は10段階評価で平均6となり、期待していた7には達しませんでした。要因として考えられるのは、今回の受講対象となった生徒の多くがITに対する興味や関心を持っておらず、将来IT関連の職業に就きたいと考えている生徒がほとんどいなかったことが挙げられます。しかしながら、記述式の自由記載欄には「これからもIT企業について調べてみようと思う」や「これからはITの授業を積極的に受けてみたい」といった前向きな感想も見受けられ、出前授業には一定の効果があったと考えられます。

一方、教諭からの評価は対象2名ですが、「新設予定の理系学科を進路先として生徒に推薦する可能性」の平均値は7.5となりました。いずれの教諭も企業との連携による就職へのつながりや、企業と共同で作るカリキュラムの構成に関心があるとの回答をいただきました。

以上の点を踏まえ、今後、学生募集などの広報活動を行う際、ITに関心のない生徒にどのようなアプローチを行い、受験につなげていくかが課題として浮上しました。併せて、カリキュラムを具体化し、生徒や教諭に見ていただくための資料を用意することの重要性も感じました。次年度はこうした課題について検討を進めるとともに、工業系の高校で出前授業を実施し、さらに生徒や教諭の反応を分析していきたいと考えております。



## 第3章 令和6年度 取組み内容詳細／打ち合わせ等記録

### 1 各種打合せ記録

- (1) 学校評価委員会
- (2) カリキュラム編成委員会
- (3) その他会議・打ち合わせ記録
- (4) 個別ヒヤリング・合同会議・セミナー記録

### 2 出張記録

# 1 各種打合せ記録（1）

## （1）学校評価委員会

令和6年度は事業期間の関係上、カリキュラムの評価には至りませんでした。そこで、令和7年1月15日（水）に委員の方々や協力企業の皆様にご参加いただき、意見交換会を開催いたしました。これをもとに、カリキュラムの策定に向けた準備を開始いたしました。

## （2）カリキュラム編成委員会

令和6年度におきましては、上記の意見交換会およびその後実施いたしましたアンケートの分析結果を踏まえたたき台作成を目的とし、2月6日（木）に仮の委員会を開催し、調査結果の報告と意見のすり合わせを行いました。これらの結果を受け、カリキュラムの概要を作成し、正式な委員会にて検討を行うとともに、協力企業に対し概要版のカリキュラム案を提示し、5月の連休前を目途にご意見をいただく予定でございます。

なお、事業期間外ではございますが、カリキュラム（概要）の検討を目的として、委員会の招集を行う予定です。

## 意見交換会（仮）記録

事業名	『令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」』 『地元企業がつくる地域のための理系学科新設事業』	L-2
会議名	IT学科設立における企業との意見交換	
開催日時	令和7年1月15日（水）	
場所	学校法人大庭学園 沖縄福祉保育専門学校、Teamsオンライン	
出席者	参加企業（オンライン） AKKODISコンサルティング株式会社 玉川様、OTNet株式会社 又吉様、うるま市 津波様 沖縄県 富田様、沖縄県東京事務所 伊藤様、株式会社ニッポンダイナミックシステムズ 浅利様 大同火災海上保険株式会社 赤嶺様（オンライン）  参加企業（対面） FRT株式会社 泉様・高原様、沖縄県情報産業協会 渡真利様、株式会社OCC 松村様・萩原様 株式会社国建システム 伊波様、株式会社国際システム 仲村様、学研エデュケーション 中里様・吉本様 豊見城市 金城様・喜納様・上原様  大庭学園 正木、江川 沖縄女子短期大学 新垣、比嘉 株式会社ホウオン 砂川  NTTデータMHIシステムズ 渡辺、堀口、諸岡、岡田、高見、井上（オンライン）  合計：29名	
【目的】	IT学科設立における企業との意見交換のため	
【内容】	・事業概要説明（できるだけ高度な技術を持った人材を輩出し、沖縄県で活躍してもらうのが目的/沖縄県の企業様に講師として参加してもらい、そのまま採用というルート作りを希望 など） ・調査結果説明 ・ディスカッション 沖縄県内の企業が求めるIT人物像と沖縄県内の学校で育成するIT人材にミスマッチが生じている可能性がある →どういった人材を育成していくかを決めたほうが良い など	
【配布資料】	無し	

文部科学省委託「理系転換事業」意見交換会

目的	IT学科設立における企業との意見の交換		
日時	2025年1月15日(水)	場所	大庭学園
15:00~17:00			
出席者	<p>ご参加頂いた企業様 ※敬称略、順不同</p> <p>【AKKODISコンパルディング株式会社】 玉川 (オンライン)</p> <p>【OTNe株式会社】 又吉 (オンライン)</p> <p>【らま市】 津波 (オンライン)</p> <p>【沖縄県】 島田 (オンライン)</p> <p>【沖縄県東洋事務所】 伊藤 (オンライン)</p> <p>【大同火災海上保険株式会社】 赤嶺 (オンライン)</p> <p>【FRT株式会社】 泉、高原</p> <p>【沖縄県情報産業協会】 渡真利</p> <p>【株式会社OCC】 松村、初原 (オンライン)</p> <p>【株式会社理建システム】 伊波</p> <p>【株式会社国際システム】 仲村</p> <p>【学研エデュケーション】 中里、吉本</p> <p>【豊見城市】 金城、喜納、上原</p> <p>(事務局)</p> <p>【大庭学園】 正木、江川</p> <p>【沖縄女子短期大学】 新垣、比嘉</p> <p>【株式会社バクオーン】 砂川</p> <p>【NTTデータPHシステムズ】 渡辺、堀口、請間、岡田、高見、井上 (オンライン)</p>		
議題	自己紹介	説明書	時間
	事業概要紹介	全員	15:00 ~ 15:10 10分
	画像制作紹介	大庭学園 江川様	15:10 ~ 15:15 5分
	調査結果説明	NMS 島田	15:15 ~ 15:20 5分
	ディスカッション	NMS 岡田、堀口	15:20 ~ 15:40 20分
	まとめ	発言者	15:40 ~ 16:30 50分
	今後のスケジュール	大庭学園 江川様	16:30 ~ 16:50 20分
	1. 文部科学省委託「理系転換事業」意見交換会.pptx	大庭学園 江川様	16:50 ~ 17:00 10分
	2. ディスカッション資料		
	3. ....		
	4. ....		
決定事項	<p>決定事項</p> <p>1. 今後も積極的な連携が必要のため、皆様には意見交換にご協力頂きたい。(大庭学園 江川様)</p> <p>2. 参加者の皆様にはアンケートを送付するので回答をお願いします。(大庭学園 江川様)</p> <p>3. ....</p> <p>4. ....</p>		

■自己紹介	<p>9月から新学科設立に向けて活動している。5年前は沖縄高等で教員をしていた。(大庭学園 正木先生)</p> <p>・教員事業を行っている。九州支社から来た。(学研エデュケーション 中里様)</p> <p>・沖縄の事務局で働いている。子供たちを対象とした事業のため、沖縄に何か必要なのかを勉強をしたいと思参加。(学研エデュケーション 吉本様)</p> <p>・江川さんと協力しており、加計エデュの検討を行っている。(沖縄女子短期大学 新垣様)</p> <p>・自身の技術力になる人材育成に興味を持っている。(株式会社OCC 松村様)</p> <p>・本社が広告代理店として参加している。(株式会社バクオーン 砂川様)</p> <p>・データ分析事業を展開している。通信技術に力を入れている。(FRT株式会社 高原様)</p> <p>・ResorTechで今のお話を聞き、興味を持った。(豊見城市 上原様)</p> <p>・FRTさんから紹介を頂き参加した。まだ、概要しか知らないためこれから勉強したい。(豊見城市 伊波様)</p> <p>・状況を把握したいと思参加した。(沖縄県情報産業協会 渡真利様)</p>
■事業概要紹介 説明：大庭学園 江川様	<p>・沖縄県の企業様に講師として参加してもらい、そのまま採用というルート作りを希望。</p> <p>・県外流出が沖縄県の課題と聞いているためどうならぬ仕組みを考えたい。</p> <p>・できるだけ高質な技術を持った人材を輩出し、沖縄県で活躍してもらおうが目的。</p>

・DXの進んでいない分野に必要なら人材を育成したい。	
■調査結果説明 説明：NMS 岡田、堀口	
説明資料：「文部科学省委託「理系転換事業」意見交換会.pptx」	
■ディスカッション	
・テーマ①：人材確保における課題のテーマは実用と一致していると思いますか。	<p>豊見城市 金城様</p> <p>豊見城市は人口増加傾向にあるが、ここからは減っていくいわれいる。</p> <p>市底もIT分野に興味があり、県外の企業も皆市に興味を持っているため、市として何か協力できる点を探している</p> <p>子供たちが増加傾向にあり、学校が増えている。市としても企業誘致を取り組んでいきたい。(大庭学園 江川様)</p> <p>⇒豊見城市の人口は多いが働き手は少ないのでは？(大庭学園 江川様)</p> <p>⇒働き手は少ないが、分野に関係なく豊見城市として働き手を増やす取り組みをしていきたいと考えている。(豊見城市 金城様)</p>
株式会社OCC 松村様	
肌感覚で10年前に比べて採用の人数が半分になっている。	
(県内の) IT企業に就職したIT次学生が減り、新卒採用が難しくなっている。	
高度な技術を持つ人材は県外へ流出していると感じており、採用のハードルを専門・工業高校卒業に下げた。	
大庭学園 正木先生	
去年の沖縄県卒の卒業生の進路状況は、就職、進学あわせて9割が県外に流出。	
県内に就職した学生は8名のみ。	
理由は、先着学生が県外に出ておりそのついでで就職するケースが多いため。	
高卒のトップ人材は初年度年収が450万円からスタートする。	
県内企業は採用に向けた活動が遅い。学生へのアプローチを早くする必要がある。	
・テーマ②：課題解決に基づく仮説	
沖縄県内の企業が求めるIT人物像と沖縄県内の学校で育成するIT人材にミスマッチが生じている可能性がある	
株式会社コンパルディングシステムズ 喜納様	
感覚として、必要は技術を取付した人材がいないのではないかと。	
沖縄県内の中小企業は専名の中手企業へコンパルとして低コストをアピールしている傾向があるが、その結果、中流〜下流工程が多くなり、売上・利益で不利になってしまふ。	
沖縄県内企業のアピールの仕方に問題があるのでは。	
沖縄県情報産業協会 渡真利様	
どういった人材を育成していかを決めたいのか。	
沖縄県から出していくにしても教員(たから)戻ってくるのか、どれだけ戻ってくるのか。	
肌感覚でいって、まずは情報共有して沖縄県や市が統制データを提供していくべきなのではないか。	
⇒今の人材が、数年後の人材は現在協議中で、一度が市、市で認可が下りる簡単に考えられないため、慎重に意見交換しながら進めていきたいと思う。(大庭学園 江川様)	
・テーマ③：IT産業における自治体・企業・学校の課題	
課題解決を目指すにあり、学校・企業・自治体への期待すること(要望)があれば教えてください。	
その他課題があれば教えてください。	
学研エデュケーション 中里様	
タブレットを子どもたちに提供し、AIアプリ学習を進めようと思っているが、指導者に向けたオンラインの教育が思い付いていない。教育者に教育する障壁の解消が思い付いていない。	
⇒沖縄県の専系人材は他県に比較して少ないのではないかと。(大庭学園 江川様)	
⇒弊社のターゲットは小学生だが、算数が苦手な子供は全国的に多い。小学生が肝で、この時期に算教をどれだけ好きになってもらうのが大事。(学研エデュケーション 中里様)	
沖縄県東洋事務所 伊藤様	
(大庭学園 江川様) 沖縄県東洋事務所様からみて沖縄県外の企業の沖縄県への目標はどういったものか？	
沖縄は若年層の他県へ多く、ITの専門学校が多いため企業としては関心を持っている。	
(沖縄の)学生は地域志向が強いので数年で戻れるようなキャリアプランを検討する企業がある)	
株式会社国際システム 仲村様	

IT技術は企業の業種によって対応しないといけないため、最初（1年目の教養として）どういった技術が必要かを説明する必要があるカリキュラムが必要なのでは？
⇒企業との連携が必要だが、そういったカリキュラムは作っていきたくない。全国でみてみてカリキュラム単位での企業連携が強い専門学校が少ないのでは？（大庭学園 江川様）
⇒学生は学んでいる知識が何のために使われているのかを分かっているか？1年生の半年の期間を使い、沖縄県内の企業にどういった社会貢献があるか、どんなIT事業を展開しているのかを説明していきませんか？（大庭学園 正木先生）
■今後のスケジュール 説明：大庭学園 江川様
・2月末をめぐり文系現段階のカリキュラムを報告書として提出する予定。
・4月以降は一旦は文科省からの予算は途切れるが、学校づくり（どこにどんな学生を募集するのか）、カリキュラム作り（どいった学習体系を作るのか）の2本立てで取り組みを継続する。
・今後も意見交換を継続する。
議事録作成：NMS 高見 諸岡

## カリキュラム編成委員会（仮）記録

事業名	『令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」』 『地元企業がつくる地域のための理系学科新設事業』	L-1
会議名	カリキュラム編成委員会提出に向けた打合せ	
開催日時	令和7年2月6日（木）10:00～11:30	
場所	学校法人大庭学園 沖縄福祉保育専門学校、Teamsオンライン	
出席者	大庭学園 理系新学科設置準備室 特任教員 正木 理系新学科設置準備室 プロジェクトリーダー 江川  パートナー NTTデータMHIシステムズ 堀口、岡田、安田 諸岡、高見（オンライン）	合計：7名
【目的】	アンケート結果・カリキュラムについて、ディスカッションを行う。	
【内容】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業アンケート結果に対するディスカッション セキュリティが多い印象。データサイエンスやプロンプトエンジニアの定義は？ 項目の定義が曖昧なので追加アンケートを行う際は企業名を含め明確にさせる。 資格以外で実践力を証明→卒業発表をコンテストとして公開するのはどうか。</li> <li>・現段階でのカリキュラムに対するディスカッション YIC訪問の結果をもとにアントレプレナーシップ（専門学校がまだ取り組んでいない）、通信制学科の提案。</li> <li>・設置学科の在学年数について 3年制も視野に入れ検討する。</li> </ul>	
【配布資料】	無し	

3年制のため、数学基礎教育が多い印象。(堀口)
・アントレプレナーシップについて
文科の事業で取り組んでいる学校はあるが、科目として取り組んでいる学校はほぼない。
授業の一部として盛り込んで教育実施している状況。(正木様)
→企業の一員としてもあるため、アントレプレナーシップを盛り込んだカリキュラムを検討したいのでは。(堀口)
→アントレプレナーシップ関連で企業との連携もある程度目途が立ちそう。(正木様)
・YIC事例
YIC訪問の際、通信制の生徒数が増えたり専修から通信制の高校を選択する中学生が多いとのこと。
全日制だけでなく、通信制も視野に入れて進めているとのこと。(堀口)
沖縄県でも通信制学生で2万人程度いるため、本学のターゲットにのりうるのでは。
→本内容は課題として報告書に盛り込む。(堀口)
プログラマー教育について、Java等を学習した後pythonを学ばせるようにしているとのこと。
pythonは簡単すぎる。(堀口)
深入り込むpythonも難い。(正木様)
在学期間の制限があるため、教えられる内容に限りがある。
2年、3年で見たときに年次ごとにどのような内容を学ぶのか考える必要がある。(江川様)
講師としても、能力的な講師がいることを発信できればけっこう強みになる。
■設置学科の在学年数について
2年制で中途半端な学習内容になるのであれば、3年制以上にすることを考えてよい。(江川様)
→4年制にすると、学生が集まらない(県外に出てしまう)のでは。(正木様)
→企業の一員や学生の一員を収めた上で、年次の検討をする方法はないか。(江川様)
→学生一員は何年制かではなく、あくまでどういう内容を学べるか。
当初想定は、企業の新入社員が必要人材の輩出という観点では2年で十分。(正木様)
→それを色々な観点を通して教育を実施する際、2年制で足りないのであれば問題ない。(江川様)
2年制にするか、3年制にするかは、カリキュラムの検討内容を踏まえつつ、次年度検討を進めることとする。(江川様)
議事録作成：NMS 安田

## 文部科学省委託「理系転換事業」カリキュラム編成委員会

目的	IT学科設立における大庭学園様との意見交換		
日時	2025年2月6日(木) 10:00～11:30	場所	大庭学園
出席者	【大庭学園】正木、江川 【NTTデータNHISシステムズ】堀口、岡田、安田 オンライ参加 諸岡、高見		
議題	内容	説明者	時間
	アンケート結果について資料・ディスカッション カリキュラムについてディスカッション 設置学科の在学年数について	正木様、江川様、堀口、諸岡 正木様、江川様、堀口 正木様、江川様、堀口	10:15～10:45 10:45～11:10 11:10～11:20 10分 25分 10分
説明資料	1. アンケート結果_諸岡_20250204_r1.pptx 2. 参考になるカリキュラム.pptx		
決定事項	決定事項 1. 成果物、納品物の作成・整理・共有(本日の議事録含む) 2. カリキュラムについての資料共有 3. 2年前から3年制とするかは、次年度検討を進める。(江川様)		

■アンケート結果について
・アンケート結果資料に説明(諸岡)
・情産院様からのため、IT系以外の他業種含めもう少し母数が欲しいが、現時点ではごつい内容。(堀口)
・セキコリアのニーズが多い印象。
また、データサイエンス等は具体的にどのようなニーズがあるか気になる。
→データサイエンスは具体的にどのようなニーズがあるか気になる。(正木様)
本当の意味でのデータサイエンスは統計学、ここまでは求められるのか。(堀口)
→セキコリア様のニーズをもう少し詳しく聞きたい。(正木様)
→プロンプトエンジニアリングに求められる能力として、前庭も必要理解が必要なのは。(正木様)
→認識は合っている。プロンプトエンジニアリングはAIの使い方を知っている、うまく使える人材。(堀口)
昨年度までは生成AI関連で話題になっていたが、最近プロンプトエンジニアリングと言われなくなってきた。
当り前の能力とみなされている。(堀口)
→生成AI関連は業界の変化が激しく、数年後どのような状況でニーズになっているのかわからない。(正木様)
→AI関連の人材であれば、AIを上手く活用できる人、AIを上手く活用できる人にわかれる。
どちらかを目指すかで、カリキュラム等目指すところが変わる。(正木様)
→2者であればAIを上手く活用できる人、それに關しては日本語能力が求められる。(正木様)
→最近の若者は検索ができない場合がある。
プロンプトエンジニアリングはそれに近い能力を身に纏うけるイメージと考える。(正木様)
・資格について、無くても実力があればよいという声が多い。(江川様)
→実践力かどのように証明できるか、ポイントとなる。
企業と連携した授業等を通してそのあたりを企業に証明できるのであればよい。(堀口)
→卒業発表をコンテストとして公開するようなやり方はできないか。(江川様)
→その場に企業に入ってもらいたいことが重要。
→以前Web企業で採用活動していた際、資格を取得や、制作物がある学生を評価していた。
この場合が大学のため、自発的に行っていることを評価できる。(正木様)
→専門学校の場合、他校でも資格を取っている。
→専門学校で資格を取っていないと不利になるのでは。(堀口)
→専門学校では応用情報以上が必要、それ以下の資格は評価してはなかった。(正木様)
→全体的に企業から専門学校に資格が求められていない印象。(正木様)
・アンケート結果はNHISからの調査結果として報告する。(堀口)
→資格や求められる分野はカリキュラム検討の参考になる。
セキコリアを盛り込むか検討したいが、セキコリアという言葉は幅が広いので、どこにターゲットを置くか問題。(正木様)
■カリキュラムについて
・国際工科大学の公開されているカリキュラムが参考になる。

# 1 各種打合せ記録（2）

## （3）その他会議・打ち合わせ記録

### 【新学科設置準備打ち合わせ】

- ・ 8月5日（月） 15:00-17:00 事業計画書についての説明，確認  
委員会メンバーについての調整  
各種イベントへの参加について
- ・ 8月23日（金） 15:30-17:30 リゾテックへの参加について
- ・ 10月1日（火） 15:00-17:30 リーフレット・ノベルティ等制作について
- ・ 10月8日（火） 10:00-17:30 ニーズ調査，ターゲットについて
- ・ 11月11日（月） 9:00-14:00 リゾテック出展内容調整
  
- ・ 12月2日（月） 10:00-11:00 議事メモ参照
- ・ 12月23日（月） 13:30-15:00 議事メモ参照
- ・ 12月23日（月） 15:00-17:00 議事メモ参照

## 各種打合せ記録①

事業名	『令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」』 『地元企業がつくる地域のための理系学科新設事業』	L-1
会議名	進捗報告	
開催日時	令和6年12月2日（月） 10:00～11:00	
場所	学校法人大庭学園 沖縄福祉保育専門学校、Teamsオンライン	
出席者	大庭学園 理系新学科設置準備室 プロジェクトリーダー 江川  パートナー NTTデータMHIシステムズ 堀口、足立 NTTデータMHIシステムズ（オンライン） 渡辺、諸岡、高見、安田	合計：7名
【目的】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市場調査の進捗報告</li> <li>・ 今後の方針についての話し合い</li> </ul>	
【内容】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校調査の状況説明</li> <li>・ 企業調査の状況説明</li> <li>・ 調査結果に対するディスカッション（調査追加事項等）</li> </ul>	
【配布資料】	無し	

## 各種打合せ記録②

事業名	『令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」』 『地元企業がつくる地域のための理系学科新設事業』	L-1
会議名	進捗報告	
開催日時	令和6年12月23日（月）13:30～15:00	
場所	Teamsオンライン	
出席者	大庭学園 理系新学科設置準備室 プロジェクトリーダー 江川  パートナー NTTデータMHIシステムズ 堀口、諸岡、岡田、高見、安田	合計：8名
【目的】	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場調査の進捗報告</li> <li>今後の方針についての話し合い</li> </ul>	
【内容】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校調査の状況説明 (学科、カリキュラム、習得資格、就職先、人材タイプ、全国・沖縄の統計調査、IT系の資格調査)</li> <li>企業調査の状況説明 (IT企業について、IT人材と教育について、離職率・IT企業の課題)</li> <li>ディスカッション (調査内容から更に必要と思われる事項)</li> </ul>	
【配布資料】	無し	

105

## 各種打合せ記録③

事業名	『令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」』 『地元企業がつくる地域のための理系学科新設事業』	L-1
会議名	進捗報告 レビュー	
開催日時	令和6年12月23日（月）15:00～17:00	
場所	Teamsオンライン	
出席者	大庭学園 理系新学科設置準備室 特任教員 正木様 理系新学科設置準備室 プロジェクトリーダー 江川  パートナー NTTデータMHIシステムズ 諸岡、岡田、高見、安田	合計：6名
【目的】	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場調査の進捗報告</li> <li>今後の方針についての話し合い</li> </ul>	
【内容】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校調査の状況説明</li> <li>企業調査の状況説明</li> <li>調査結果に対するディスカッション（企業の採用ニーズと学校調査での職種がマッチしていない）</li> <li>追加調査（就職状況/資格取得者数（取得学生の割合）/企業の採用ニーズと学校調査での職種のすり合わせ）</li> </ul>	
【配布資料】	無し	

106

# 1 各種打合せ記録（3）

## （4）個別ヒヤリング・合同会議・セミナー記録

### 【個別ヒヤリング記録】

- ・ 10月11日（金） 13:00-14:00

### 【合同会議・セミナー】

- ・ 12月12日（木） 15:00-16:30 合同会議（江川）
- ・ 1月31日（金） 13:10-13:40 登壇・事業報告（正木，江川）

### ソーシャルワーク専門学校 <第1回ヒヤリング>

■2024年10月11日（金） 13:00~14:00

■Zoomによるオンライン形式

■参加者（敬称略）

<受託団体>

学校法人大庭学園 ソーシャルワーク専門学校 江川 毅

<文部科学省>

総合教育政策局 生涯学習推進課 専修学校教育振興室 専修学校第二係

大塩 宏太、齊藤 秋

<分野横断連絡調整会議>

日経 BP 総合研究所 岩居 浩朗、長谷川 直樹、渡辺 亨靖

■日経 BP——事業計画書の「事業の趣旨・目的等について」に「学校法人が単独で学校を設置するのではなく、企業が教育事業に参画し、学科の設置・運営に主導的な役割を果たします」とある。このような形式を取った趣旨や理由は何か。

学校法人大庭学園ソーシャルワーク専門学校（以下 SW）——今回、検討していく段階で、卒業生が就職し現場に入ると必ず最初に研修を受けている、特にIT系の企業だとそういったところが多く見られるが、その研修がどういったものかと調べるところからスタートした。もちろん、業態によって大きく違うが、基本的にはクラウド系の会社であればクラウド、ネットワーク系の会社であればネットワーク、プログラムのところだと言語などを勉強していく。フレームワークのところをやったり、結構長い時間、半年や1年ということでもあったりする。そうすると学校で行っていることと、企業に入ってから行うことで少し違いが出てきてしまっている。企業で即戦力として働く人の中には中途の方がいるが、そういう人とどこが違うのだろうと突き詰めたところ、であれば企業の研修を学校のプログラムの中に落とせないかという発想から、企業に協力いただきカリキュラムを構築していくところに行き着いたというのが背景になる。

■日経 BP——「単独で学科を設置するのではなく」とあるが、基本的に学校として、学科は設置するが、運営に関しては企業に大きく役割を果たしてもらうということか。

SW——企業にコミットしてもらうという言い方を私たちがはしているが、企業に丸投げという形ではなく、日々変わっていく技術や、必要な人材を意識しながら、そのカリキュラ

ムに対して助言をしてもらおう、あるいは講師を派遣いただき実際に授業を運営してもらおう、そういうところまで踏み込んだ形で作ることができないかという思いでスタートしている。

■日経 BP——即戦力育成のためのカリキュラムを企業と一緒に作り、送り出すという形か。

SW——沖縄県でも IT を学習できる専門学校はほかにもあり、我々は後発になる。後発ではあるが、今、私たちの行っている福祉の分野と同じように、IT 人材不足の声が業界ヒアリングで聞こえてくる。ニーズがどこにあるのかというと、リカレントやリスキリングの形で、現場にいる方に対して直接働きかけてスキルアップを目指してもらおう方法もあるかと思っただけ、そうではなく、やはり長い目で見た時には新卒の学生の中で定期的にスキルを持った人が入ってきたほうが会社としてはいいだろうと。会社の求める人材をもう少し突き詰めて、研究ベースや、学校でできることの範囲に収めるのではなく、その企業に参画いただいて、企業目線で必要なものをそろえていくことにチャレンジしてみようというものが、今回特に根幹になっている。

■日経 BP——講師は必ずしも企業からの派遣だけでなく、独自の講師も持つのか。企業から派遣講師の数のほうが多いか

SW——学校の運営上、設置基準上、必要な人数についてはそろえていく。どこまでできるかはこれから決めていくが、実際に文科省の設置認可に抵触しない形でできるところを最低限、押さえながら、できる範囲でやっていく。

■日経 BP——学校名がソーシャルワーク専門学校で、IT とはほぼ関係がない学科しかないと思うのだが、教員の確保や、学生の確保について不安はないか。

SW——一人、理系の先生に入ってもらっている。元々沖縄国立高専の情報関係の教授をさがしていた方で、徳島県の神山まるごと高専の立ち上げにも関わった方だ。連絡が取れて、たまたま沖縄に展ってこられるところで一緒に動いてもらっている。ということもあり、教員やカリキュラムに関しては、私自身全く不安は持っていない。

ただ、学生確保に関しては県外では変わってきているという話も聞いた。二つ前に先端技術利活用実証事業という文科省事業で採択していただいたが、その時に船橋情報ビジネス専門学校で理事長といろいろやりとりをしたので、今回、専門学校で理系ということで、意見交換をさせてもらった。昔に比べると IT 系企業も採用に関して学生保護というか、優遇しなくなってきたので、思っているようなブラックス企業イメージはだいぶ払拭されているということだった。たぶんしばらくすれば沖縄もそういうところも分かって、募集時に応募者が増えるのではないかというのがあったので、一応そこも参考にしつつ進めて

みようかと考えている。また学内ではこういった学校を作っていくことに關してコンセンサスを得ているので、早めに県内に周知していくことを進めよう、広報活動も来月からスタートさせる予定で、今、準備を進めている。

まだ中身は検討中だが、沖縄県の IT 企業をとりまとめる団体とも連携ができています。例えば出前授業などを高校で行ったり、イベントに参加して周知していくなど、県内の IT 企業にも協力いただいことも計画している。全く不安がないわけではないが、準備を進めているところだ。

徳島の高専の立ち上げにも携わった方は 16 年ぐらい沖縄高専で教授をされていて、多くの学生を輩出しているので、その先生のツテでいろいろなら今知り合いながら進めている。

■日経 BP——貴校のホームページを拝見すると、学生の新規申し込み停止と出ているだけでほかに詳しいことが書かれていない。本業であるソーシャルワークも辞めて、覚悟を決めて転換をしていくのかと思っていた。今ある社会福祉士養成コースはもうやらないのか。

SW——大庭学園には専門学校のキャンパスとして、那覇にある沖縄福祉保育専門学校と、北中城村というところにあるソーシャルワーク専門学校の二つがある。こちらの場所については、建物の老朽化や場所のことを考慮して、今後ここをいったん閉じて、那覇の沖縄福祉保育専門学校の中に仮で移って、その後どういう形で進めていくかを、今これは私ではなくて経営陣で協議しているところ。選択肢としてはいくつかあり、ソーシャルワーク専門学校でまた社会福祉士などの学科を復活させて実施する方法と、ソーシャルワーク専門学校自体の福祉系の学科を全て沖縄福祉保育専門学校に移して、ソーシャルワーク専門学校だけ名前を理系の学校の名前に変えて、新しく今構築しようとしている学科を設置する方向で考えるか、もしソーシャルワーク専門学校に社会福祉士等の福祉系が残るのであれば、その中に理系を作ろうとすると分かりにくくなるので、ソーシャルワークとは別に新しい学校を作るか、今そういうところは検討してもらっている。いずれにしても本体のソーシャルワーク専門学校をどうするかとは別ラインで、今回の理系のこのプロジェクトについては進めていく。

■日経 BP——開発するモデルの概要で、新学科では基礎学力を重視していくとある。どちらかというと広く浅く IT の知識を身につけてもらうイメージだが、一方で高度 IT 人材の育成もきちんと行っていくとあり、想定する科目や単位数を書いているが、両方とも行うのはなかなか難しいと思う。どの程度まで高度化するかはこの事業の中で決めていくのか。

SW——沖縄県内の需要の話をすると、沖縄県の IT 企業は基本的には内地企業の二次請け、三次請けがほとんど。メーカーとして独自に開発をして、県外あるいは海外に展開している例は極めて少なく内地からの下請けの形で事業展開しているところが多い。IIA という

IT系の企業をとりまとめている県内の団体とも話をしているが、あまり高度な技術を養成する学科を作っても、卒業生が県内で就職する先がない。要は、県外に行かないとそういう技術を活用できない。なので、どこを落とし所にして技術を身につけてもらうかがとても難しい。県内企業に狙いを合わせてしまうと、二次請け、三次請けでいいようなレベルになってしまいますので、そんな人材を育ててどうするのという話が絶対に出てくるし、学生にも魅力的に映らないと思うので、落とし所をどうするか検討しているところだ。

IT系の学科だから、卒業した学生が全部理系に行くのかというと、私たちは実はそうは考えていない。DX=IT化みたいな間違った認識がまだある中で、いわゆるサーバーや観光事業においてIT人材が足りているかというと、全く足りていない。いろいろな話を聞いて頭でっかちになっているのだが、今の段階で考えているのは、コース分けをして、高度なAIやサイエンス的な分析系のところに行くコース、プログラマーとして県内の企業へ輩出してもどこでもいけそうな人材育成コース、あとはそんなに高度な技術は持っていないが、一般企業の中でDX推進をするような力を持った人材を育てると、この3本ぐらいでコース分けをして進めていく。科目も選択制になったり、必修になったりというところで、学生によって選ぶ科目が変わるという中で調整ができるのではないかと、ということで、検討している。

■日経BP——DXを会社の中で実行する人材が今、圧倒的に不足している。  
——そういう人材が必要そうな会社経営者なども話をする機会はあるか。

SW——本当にExcelの関数やマクロを使えば簡単に済んでしまうことを手作業で行っている事業所が多くある。そういった旧来型の仕事の仕方をしていてるところがたぶん今後大きなターゲットになってくるのではないかと考えている。

——今まではIT系企業や団体とばかり接触していたが、観光のコンベンションビューローや中小企業同友会、日本商工会議所、総合産業支援センターなど、いくつかそういう団体をとりまとめているところにヒアリングを行う。人材が今どのような状況なのか、DXと書かれている中での人材確保や、企業の中での研修のあり方などのヒアリングを今計画はしている。

また、文部科学省事業のDX人材育成プログラムもやらせてもらっている。こちらで今、講座を作っていて、次年度はまた違う形でリカレント教育の教材として展開をしようとする準備を始めたのだが、そこで実施したヒアリングでも、やはりDX人材不足が見えてきた。であれば、理系人材の中でそういう力を持っているのだけどもプログラマーではないし高度でもない、でも勉強した人の行き場として、そういう企業が一番向いているのではないかと、という話が出て、新しいコースを作ったかどうかという発想になっている。

■日経BP——DX人材のほうの資産もいろいろ活きてくるか。

SW——履修証明プログラムのような形で展開できないかとも思っている。この理系の学科と直接関連させられるかは未定だが、使えるエッセンスは使えたらと思っている。

■日経BP——計画の全体象のところ、企業と連携で、さくらインターネットとは協力を取り付けているようだが、ほかの企業でほぼ協力いただけたところはあるか。

SW——約束の段階では、神山の高専の立ち上げに携わった先生がいるのであれば協力しないうわげにはいかないと皆さんに言われている。ただあくまでも口約束なので、具体的な話が出てきた時に、恐らくいろいろな利害関係が生じるだろうと思っている。もちろん、企業が持っている資産なので、それを簡単に無料で公開するだろうかなど、いろいろな疑問点は持っている。実際に企業と話をしながら、個別に何をどこまでという相談はさせていただこうと考えている。

■日経BP——今年度の取組としてイベント・フォーラムへの参加とある。未来の学校フェスというのは、いつどこで行うフェスなのか。

SW——これは私もまだ把握ができていないが、広報について今いろいろと動いてもらっている方がいる。11月14、15日沖繩アリーナで、「ResorTech Okinawa」というIT系の企業の展示会があるので、第1弾としてそこに出展する。企業の新しい技術や商品の展示会だが、情報系の高校生がバスで来て各企業を回るということもある。高校生に対してこんな構想の学校を作る予定という周知活動ができるかと考えている。またいま声掛けしている企業以外で、私たちの構想に賛同協力してもらええる企業を増やせないかと考えており、会場を回って、いろいろな企業に協力依頼をすることを計画している。また1月ぐらいに「IT祭り」があるが、これは高校生もたくさん来るイベントなので、そこでの高校生向け新学科のPRの準備を今、進めているところ。あとは、高校に出向いていって出前授業をできる学校もいくつか押さえたい。学校で説明だけでなく、それ以上にITやデジタル系に興味を持ってもらええる授業を展開できないかなということ。先ほどの先生に講義内容を検討していただいている段階。今年度はこの三つがメインになるかと思う。未来の学校フェスはたぶん来年度以降に行うことになるのではないかなと思っている。

■日経BP——高校へ出前授業というのは情報の時間に行うのか。それとも探究などか。

SW——たぶん探究などではないか。情報はたぶん情報で、別に企業などが入ったりして行っているみたいなので、それとは別だと思われる。

SW——一応、若干高めで設定はしている。目標としては、新しい学校をこれから作るころに興味を持ってもらったり認知してもらおうところがあるので、出前授業に全く興味を持ってもらえなかったり、面白くなかったというのは好ましくなくということ、あえてチャレンジで出している。

■日経 BP——出前授業先の高校の先生が推薦してくれるか、ということ、これも10段階評価になっているが、7というのは高いのか、低いのか。

SW——これも感覚的だが、半分では少ないので7にしている。合格率、及第点ぎりぎりの7。

■文部科学省——出前授業の出張先が既に決まっているとのことだが、それは情報系の学校になるのか。

SW——情報系ではなく普通高校だが、高校の中で情報の授業も行っている学校だ。ゆくゆく、情報や非情報系は問わずに、県内の高校を回ったりできればいいかとは思っている。

■文部科学省——転換した新しい学科に入ってくる学生が、高校段階で情報を特別に勉強した人も、していない人も分かる内容になる予定だから、普通高校にということか。

SW——これも今までのミューティングの中で出ている話だが、やはり素養として一番大切なものは、科目で言うと小学校レベルの算数と皆さん言っている。算数と言っても、足し算引き算ではなくて、文章問題が解けるか解けないか、あるいは証明問題が解けるか解けないかというところが一つの指標になってくるという話が出てくる。そういう人であれば、言語を知らなくても、企業に入って少し研修をすればすぐプログラムが書けるようになる。皆さん口をそろえて言っている。日能研という塾があるが、電軍の上のところに小学校や中学校受験問題を載せた広告を出している。日能研という塾が考えた問題がたくさんある。それはちゃんとした論理的な思考がないと解けないという問題がたくさんある。そういう力がある人であれば、別に情報系の学科でなくてもいいということ、今回選ばずにいろいろな高校を見て回ることを考えている。

■文部科学省——承知した。測定指標の部分だが、2段階の理系IT人材、科目の精度のところ、受講者向けアンケートによって出すことだったので、受講した高校生の方からの評価だと思うが、KPIの一番下に記載がある、目指す人材像に関して企業・団体・高校生等からの関心度を評価という部分の、こちらの評価と、アンケートの内容的に重複する部分があるのかないのか、もし既に決まっていたらどのような質問項目でそういった関心度を聞くのか。

■日経 BP——実施するアンケート調査で、現場で必要な人物像、技術とあるが、「現場」とは職場のことか。

SW——沖縄県のIT企業の現場だ。この調査に関しては、比較を行うことにしている、県内の企業の現状と県外の現状をきちんとぶつけて、将来的にどういう人材が必要になるのかをしっかりと見極めようとしている。私は神奈川出身で神奈川から移った時に感じたのが、沖縄県の今やっている日常は、内地の十数年ぐらい前の状況に似ている。言葉を選ばないで言うと、ITの技術などに関しては純粋に遅れている。内地と同じようになつた時には、内地はその一歩先を行っている状況がある。そういう意味ではいま内地で起きていることは、将来的に沖縄でも起きることという一つの指針になるので、内地がいまどういう状況で、これからどういう方向に進もうとしているのかという部分と、今の沖縄県の企業の現状がどうなっている、これから先どういうことが見込まれるのかを比較検討する材料としてそういったものも使いたい。そういうことか全部加味した状態で、5年後に輩出する人物はどういう人材であるといいのかを最終的なカリキュラムのゴールにするという、流れて進めている。

少子化もそうで、沖縄県は子供の数が多くと言われているが、だんだん減ってきている。県外で少子化が騒がれたのは大体2000年前後。私もその時は別の大学で仕事をしていたのだが、大体25年ぐらいして、同じようなことが沖縄でも起きている。入ってくる学生の、言葉を選ばなければ学力が少し下がってきた時に、今までと同じような講義ができなから、これをサポートするような指導を事前に行っていたが、同じことが今こちらで起きている。この2000年から2010年ぐらいにかけて行っていたが、同じことが今こちらで起きている。今まで入ってきた学生の層と違う層が入ってきているので、学校の授業についていけない子をどうしたらいいかという、全く同じ議論を今、している。

■日経 BP——KPIだが、最初に普及展開を図った団体の数が入っているが、1や3というのは企業が多いのか。

SW——いや、学校だ。やはりせつかくこういった事業をさせていたでいたで、私たちが学校でこんな取り組みをしているところを学校、やはり高校にアピールできたらと思っている。そういう学校はまだ形ができていないので、一つでもできたらいいとは思っているが、県外の学校などで実はこんな取り組みを行っているということが紹介して言えたらいいなと思っていて、そういう意味での学校数だ。

■日経 BP——理系IT人材育成のための開講予定科目の精度とあって、これはネット・プロモーター・スコアを使うとあるが、プラス10というのは感覚的にどのくらいのことなのか。

SW—ここに關しては、基本的には上の部分が科目で、下にあるほうがカリキュラム全体という認識で考えているので、もしかしたら今おっしゃるようには重複部分は出てくるかもしれないが、とりあえず一回やってみて見直しをかけることもあってもいいかと考えている。具体的なアンケートの自身は、まだ来年に入ってから授業の予定なので、まだ準備ができていないので、今お話しいただいた部分も盛り込みながらしっかりと作っていきたい。

■文部科学省—カリキュラムで育成を目指す人材の評価については、企業・団体側からの評価と高校生側からの評価はかなり視点も違えばアンケート項目も内容も変わってくるのかなと思う。

SW—そこは変えなければいけないと思っっているので、そうなるとここでいっぺんに表現するのはおっしゃるとおり難しいかもしれない。その場合は報告書で項目を増やすなり対応をしたい

文部科学省—承知した。検討いただきたい。

■SW—今回の事業は今までの受託したものと比べると、学科を丸ごと考えるものになっているので、われわれの知識や経験を大きく超えるところはたくさんあると思う。ほかの受託団体の取り組みなど、意見交換をする場がたくさんあるとうれしい。沖縄県の学校も一つ入っているようなので、時間を作って行ってみたいし、船橋の学校も今入っているようなので、話をしてみたい。われわれが経験がない部分で大切な情報が欠落しないように極力連携が取れるとありがたい。

—せっかくヒアリングしていただいているので、似ているところでグルーピングして、ミーティングの機会を設けていただけたらと、私たちも不安部分の解消、自分たちが突っ走っていないか、補正ができるかと思うので可能であればお願いしたい。

日経BP・岩居—承知した。前向きに考える。

(以上)

## 2 出張記録（1）

事業名	『令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」』 『地元企業がつくる地域のための理系学科新設事業』	L-1
会議名	情報交換 ヒヤリング	
開催日時	令和7年1月9日（木）15:00～16:00	
場所	学校法人 YIC学院 YIC情報ビジネス専門学校	
出席者	YIC情報ビジネス専門学校 教務係長 情報ビジネス学科長 赤木様 メディアデザイン科 学科長 辻村様  富士フイルム ビジネスイノベーションジャパン株式会社 中岡様  大庭学園 理系新学科設置準備室 プロジェクトリーダー 江川  パートナー NTTデータMHIシステムズ 堀口、諸岡、高見、安田	合計：8名
【目的】	情報系の新学科新設と専門学校開校という点で、大庭学園様との共有点がある YIC情報ビジネス専門学校様への情報共有依頼	
【内容】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容説明（取り組みと現状）</li> <li>・情報共有依頼</li> </ul>	
【配布資料】	無し	

## 2 出張記録（2）

事業名	『令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」』 『地元企業がつくる地域のための理系学科新設事業』	L-2
会議名	情報交換 ヒヤリング	
開催日時	令和7年1月10日（金）	
場所	学校法人 安田学園 安田女子大学	
出席者	安田女子大学 企画部 企画推進課 主務 東様  大庭学園 理系新学科設置準備室 プロジェクトリーダー 江川  パートナー NTTデータMHIシステムズ 堀口、安田	合計：4名
【目的】	情報系の新学科設立と専門学校開校、学生の県外流出への課題の2点で、 大庭学園様との共通点がある安田女子大学様への情報共有依頼。	
【内容】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容説明（取り組みと現状）</li> <li>・ヒヤリング（安田女子大学様 新学科設立に関する取り組み）              情報系の教員を校にカリキュラムを作成。企業との連携も教育者が行っている。              学生の県外流出に対する課題はまだ残っている              中学生へのアプローチ（高校からでは遅い）、文系の教科でも受験可能（生徒数を増やす）              情報系の学科が増えていることもありスキルのある教員を集めることが難しかった。</li> <li>・情報共有依頼</li> </ul>	
【配布資料】	無し	

女子大学として日本初の

# 理工学部

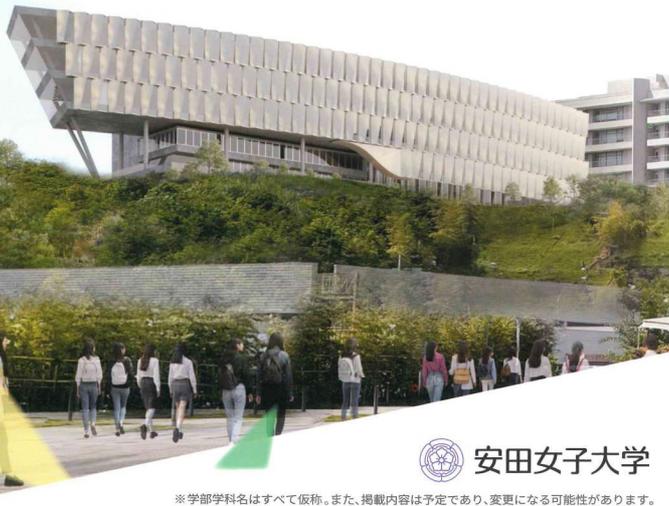
生物科学科

情報科学科

建築学科

## 2025年4月 開設予定

(設置認可申請中)



**安田女子大学**

※学部学科名はすべて仮称。また、掲載内容は予定であり、変更になる可能性があります。

## 先進的で整備された キャンパス

学生の創造性を育む環境を整えた「ラーニングcommons」など、カラフルで遊び心にあふれた施設が充実。高校生が多く「ええ？ここが大学？」と驚くキャンパスです。学生が能動的・協働的に学ぶ環境づくりとして最新のICT環境の整備にも力を注いでいます。さらに、理工学部設置計画に伴い、新しい分野の研究・実験に対応するため、延床面積約15,000㎡の新棟(理工学部棟)が2025年に完成予定。ますます充実する学修環境が、あなたを待っています。

理工学部棟2025年度完成予定



## 充実した進路・就職サポート

長い歴史と伝統に裏付けされた実績や万全のサポート体制で、景気の変動にかかわらず10年平均就職率は98.9%。安田女子大学の卒業生に対する企業の評価は高く、そのことが安定した就職率を支える要因の一つとなっています。また、学生が自らの職業適性や将来設計を考える機会となるよう、インターンシップを導入。研修先は約200社。実際の仕事現場を体験し、主体的な職業選択や高い職業意識を養います。

## 授業料等諸納付金(予定)

理工学部では、学生の「学び」の気持ちを大切に、少しでも家計への負担が少なくなるよう授業料等諸納付金を設定しています。

理工学部	入学料(入学時のみ)	100,000円
生物科学科	授業料	1,150,000円
情報科学科	施設設備費・雑費	229,000円
建築学科	初年度学費計	1,479,000円

※本学部と別分野である私立大学の初年度学生納付金平均は1,627,375円です。  
(出典：文部科学省「私立大学等の令和3年度入学者に係る学生納付金等調査」)  
※本学仕様のノートパソコンを入学時に配布します。

## 理工学部に関するQ&A

Q. 文系でも大丈夫ですか？

A. 理工学部では、文系科目による受験も可能となるよう計画しています。また、各科目の基礎となる理系科目を深く学んだ経験がなくても、入学後は基礎から積み上げていくことのできる初級的なカリキュラムを各学科で準備しています。自然科学や工学の知識は現代社会で常に求められており、どんな職種でも役立つものです。本学部では、文系のバックグラウンドを持つ学生が、理工学部の魅力を体感しながら、独自の視点やアイデアを生み出すことができると考えています。

Q. 他大学の理工学部との違いは？

A. 急速に科学技術が進歩する現代では、文系・理系の枠組みに捉われない知識や専攻など、人間としての在り方や生きかたに関する深い知識、実践を正しく理解する力が不可欠です。2024年度末、1学部14学科が1キャンパスに集う安田女子大学では、幅広い教養科目を履修しており、全学部共通した科目は150科目以上開講しています。自分の専門分野に限定せず、多くの学びに触れ、幅広く知見を養うことができるのは、総合大学である本学だからこそ可能です。

Q. 学びの特長は？

A. 理工学部の全ての学科において、社会や地域との連携を前提としたプロジェクト学習を積極的に展開します。大学で学んだ学びだけでなく、大学の外に出て、行政や企業、地域の課題やニーズを収集し、必要に応じて他の専門分野と連携しながら多角的にアプローチすることで、自身の専門分野を基盤とした創造力・コミュニケーション力・課題解決力など、社会での即戦力を身につけることができます。このほか、各学科の具体的な授業科目、教員紹介などの詳細は随時ホームページで公開します。

Q. ICT・パソコンなどの教育環境は？

A. 本学では、ICT活用能力の高い人材を育成することを目的として、一人一台、専用のノートパソコンを用意しお渡ししています(2024年度実績)。大学では「情報処理基礎1~4」の授業を全学生が履修し、パソコンの基本操作、文書作成、資料ソフトの活用、プレゼンテーションスキル、データサイエンス、プログラミングなどを演習より積極的に学びます。本科目は、文部科学省が定める「産学・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定されています。

お問い合わせ 安田女子大学入試広報課

〒731-0153 広島県広島市安佐南区安東 6丁目13番1号  
082-878-8557 nyushi.box@yasuda-u.ac.jp

理工学部の詳しい情報はWebで



※学部学科名はすべて仮称。また、掲載内容は予定であり、変更になる可能性があります。

## About Faculty

### 安田は未来を先駆ける

科学技術が急速に進歩し、多様化する現代社会においては、自然界に存在する物質や現象の原理・法則を追究する「理学」と、その知識をもとに新たな技術を創出し、豊かで快適な社会を創造する「工学」の力を併せ持つ「理系人材」の育成と活躍が求められています。

理工学部では、基礎教養教育と各学科に立脚した専門教育、専門の垣根を越えた融合教育を有機的に組み合わせ、急速な技術革新・自然との共生・持続可能な社会の実現など、現代社会が抱える複雑な課題に対して柔軟に取り組める人材を養成します。

あなたの挑戦を  
始めませんか？



一人ひとりが幸せや生きがいを感じる豊かな未来を創るために、

## 理工学部3学科と学びのキーワード

あなたの好奇心が未来を創る力に変わる

### Biological Science 生物科学科

**学びのキーワード**  
#品種改良 #ゲノム解析 #DNA・RNA  
#遺伝子組み換え #微生物、昆虫  
#乳酪菌・腸内細菌 #組織培養  
#野菜・くだもの花・観葉植物  
#人工栽培 #食品開発・加工、機能性食品  
#発酵食品(チーズ・パン・ヨーグルトなど)  
#醸造(アルコール・味噌・醤油など)  
#フードテック #持続可能性、SDGs  
#地球温暖化、気候変動、エネルギー問題  
#生態系、生物多様性 #バイオエネルギー  
#植物色素、天然香料、化粧品、アロマ開発  
etc...

### Informatics 情報科学科

**学びのキーワード**  
#プログラミング、システム・ソフトウェア開発  
#スマホアプリ・ゲーム開発  
#ヒューマンインターフェース、タッチスクリーン  
#SNS #情報検索、サーチエンジン  
#サイバーセキュリティ、IoT、ロボティクス  
#人工知能、AI、深層学習 #アルゴリズム  
#ビッグデータ、データ分析、データマイニング  
#データサイエンス #VR・AR、メタバース  
#アバター、モーションキャプチャ  
#CG、動画、3Dキャラ #Webデザイン  
#DX #IoT  
#オンラインショッピングサイト etc...

### Architecture 建築学科

**学びのキーワード**  
#建築デザイン、建築意匠  
#インテリアデザイン、空間デザイン  
#商業施設、オフィスデザイン  
#都市計画、まちづくり、都市デザイン  
#設計・製図、施工、CAD・BIM  
#建築学、人間工学 #環境保全、建築法規  
#防災・減災計画、耐震対策 #省エネ住宅  
#住居再生、リノベーション、コンバージョン  
#歴史的建造物の保存・復元  
#建築の歴史・思想  
#高齢者居住問題、バリアフリー  
#空き家問題 #建築士資格  
#ランドスケープ etc...

## 情報技術で未来を救う

### Informatics 情報科学科

定員 60名  
学位 学士(情報科学)

情報技術3分野7領域を横断的に学び、Society 5.0で必要とされる  
発信力・表現力・課題解決力を兼ね備えた人材を養成する。

### 最新の効率化された学修体系で 情報技術を基礎から学ぶ

- 汎用性が高いプログラミング言語(Python)を中心とし、最新かつ効率的な学びを展開します。
- 1~2年次にかけて情報技術の基礎を学び、3年次以降に専門性を深化させるために必要な基礎を確立します。
- 情報倫理、著作権やプライバシーなどの情報社会を学ぶ、技術を社会で実装するための倫理観・知識を身につけます。

### オーダーメイドカリキュラム

情報技術 3分野 7領域から複数の学びを選び、修得スキルを自由にデザイン

#### デジタルメディア分野

- プログラミング領域
- Web 領域
- サーバ・ネットワーク領域

**発信力** を伸ばす  
Webサイト制作 / ソフトウェア・アプリ開発 /  
サーバ構築 / ネットワーキング

#### ヒューマンインタフェース分野

- ヒューマンインタフェース領域
- ゲーム開発領域

**表現力** を伸ばす  
画像・映像編集 / 仮想空間アバター作成 /  
メタバース技術 / 仮想空間と現実の融合

#### データサイエンス分野

- IoT・データサイエンス領域
- 人工知能領域

**問題解決力** を伸ばす  
人工知能 / データ解析・課題解決 /  
IoTによる遠隔制御 / 画像認識システム

### 分野横断で挑む「社会連携プロジェクト」

- 3年次には、社会課題に対する具体的な解決策を模索するため、行政や企業と連携し課題解決型のプロジェクトワークに挑戦します。
- プロジェクトは分野を越えた横断型の学生チームで行い、異なる背景や専門分野を持つメンバーで協力を課題発見から解決策の設計、その実装まで一貫して取り組みます。こうした経験を通して社会での即戦力・コミュニケーション力・課題解決力)を身につけます。

### 養成する人材

情報理論に基づく定量的な評価を用いて、社会課題を正確に理解し、解決に必要な情報システムの設計・開発から実装・運用まで行うとともに、人間の能力を助長する快適なヒューマンインタフェース環境を構築できる人材を養成します。

### 想定する進路

- |  |  |   |
|--|--|---|
| WEBエンジニア<br>システムエンジニア<br>ソフトウェア開発エンジニア<br>ネットワークエンジニア<br>セキュリティエンジニア | 未来を予測できる課題解決型人材<br>次世代クリエイター<br>ITスキルを持つ課題解決型総合職<br>(企画、マーケティング等)<br>データマイニングエンジニア<br>DXエンジニア<br>人工知能エンジニア | WEBクリエイター<br>DTPクリエイター / 映像編集者<br>ゲームプログラマー / クリエイター<br>画像システム開発エンジニア |
|--|--|---|

※学部学科名はすべて仮称。また、掲載内容は予定であり、変更になる可能性があります。

※学部学科名はすべて仮称。また、掲載内容は予定であり、変更になる可能性があります。

## 第4章 令和6年度のまとめと次年度への取組み

- 1 令和6年度のまとめ
- 2 次年度への取組み

## 1 令和6年度のまとめ（1）

今年度は、全体的に「こなした」という印象が強く残る結果となりました。同時に、新しい学科を設立することの難しさを痛感いたしました。沖縄県にはIT系の専門学校が多数存在しており、後発の学校としてどのような取り組みをすべきか検討した結果、地元企業がサポートする理系新学科というコンセプトが生まれました。しかしながら、企業との連携を具体的にどのように進めていくかについて十分な議論を経ないままスタートしたため、冒頭で述べたように、暗礁に乗り上げた印象を否めません。

私たちは、まず協力関係を築き、その後に具体的な内容を詰めていく考えでしたが、企業側からすれば「何を求めているのか分からないと協力できない」と感じるのは当然のことです。この点が一種の落とし穴となってしまったと言えます。しかし、その中でも新たな気づきを企業様から多くいただき、それらを参考に次のステップに向けて準備を進めてまいりました。今年度は、いわば風呂敷を広げる年であったため、次年度からは少しずつ風呂敷を畳み、より具体的かつ現実的な計画に絞っていく必要があります。

特にカリキュラムに関連して、科目の設置や担当講師について企業との連携がどこまで可能なのか、可能であればその範囲や報酬の設定、教育コンテンツの提供の現実性、またそれが可能であればライセンスの処理など、例を挙げればきりがありません。これらの点について、しっかりと議論を重ね、具体的な連携方法を見出してまいりたいと考えております。

## 1 令和6年度のまとめ（2）

他方、新学科をどこに設置するかという点については、学内にまだ解決されていない課題が残っています。沖縄福祉保育専門学校やソーシャルワーク専門学校に、福祉学科と並んで理系の学科を新設することは、受験生や高校関係者にとって分かりにくくなる可能性があるため、現段階では新学科の設置＝新しい学校の設立という方向で検討を進めています。費用面も含めて、どこにどの程度の規模で設置するのか、その際にふるさと納税などで自治体の協力を得られるかといった課題も解決しなければなりません。

これらの検討課題を具体化することで、企業や自治体の協力を得やすくなると考えられるため、本報告書の作成後、すぐに次年度に向けた取り組みに着手し、目標とする2027年4月の開校に向けた準備を開始する必要があると考えています。

なお、人口が減少している都道府県は他にも多くあり、人口減少に伴う人材不足の課題を抱えている企業や自治体も少なくありません。実際に、ITフェスタでお会いした宮崎県の専門学校でも、企業や自治体と連携することを念頭に事業を進めており、今後このような流れが増えることが予想されます。また、そのような企業では、大学卒業や短期大学卒業のようなジェネラリストではなく、スペシャリストの人材を求める傾向が強まると考えられます。

今後、専門学校がこのような方向に向かうことが予想されるため、本校の取り組みが、人口減少という課題を抱える他の都道府県のモデルとなるよう、しっかりと取り組んでまいります。

## 2 次年度への取組み（1）

次年度は専修学校設置認可申請を行うことを目指し、以下の項目を実施いたします。

(1) 学校設置場所の選定

(2) 開校のための資金の確保

(3) カリキュラムの策定

カリキュラムを策定するために、カリキュラム検討委員会を開催します。カリキュラム検討委員会は一般社団法人沖縄県情報産業協会の協力の下、沖縄県内を主とする県内外の協力企業から委員を選出した委員会として、オンラインまたはオフラインで一ヶ月に一回以上の頻度で開催し、カリキュラムを具体化する作業を行い、2025年中にカリキュラムの完成を目指します。

(4) 校長予定者の選定

IT系の専門学校として校長にふさわしい教育に対する見識と実績をそなえた校長予定者を選定します。

(5) 教員の確保

実践的な技術と教育実績を持つ専任教員を専修学校設置基準に則り確保いたします。

## 2 次年度への取組み（2）

(6) 周知活動

新設しようとする学校の特徴をIT産業のみならず沖縄県全体に周知する活動を行います。

具体的には2024年度に実施したResorTech EXPO in OkinawaやITフェスタだけでは無く、沖縄の産業まつり等の広く周知できる場に積極的に参加を予定します。

(7) 学生確保の活動

2024年度は沖縄県立陽明高等学校で出前事業を実施しましたが、さらに多くの学校で出前授業等を実施することにより、高校生に周知する活動を行います。



## APPENDIX

- 1 株式会社N T TデータMHIシステムズ サービス・プロダクト事業部  
令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」  
実施計画書
- 2 株式会社N T TデータMHIシステムズ  
令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」  
活動報告書
- 3 株式会社N T TデータMHIシステムズ  
令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」  
調査報告書
- 4 81office  
地元企業が作る地域のための学科新設事業  
広報用ホームページ・Webコンテンツ制作及びイベント・出前授業企画運営  
業務 令和6年度 報告書

